

**令和7年度
科目案内**

「北稜シラバス」

3年生

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	論理国語	2	3年生 総合探究コース	
教科書	『精選 論理国語』 (東京書籍)	副教材	『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 このは』(い いずな書店) 『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(知識および技能)
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などを理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識／情報の扱い方／読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に／豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力／読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

読む力も書く力も、一朝一夕には身につけません。こつこつ頑張りましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	文学国語 読1「随筆1」	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	表現 国際	教科書 『国語から旅立って』	
	論理国語 読1「言葉を再考する」	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	表現 国際	教科書 『言語と記号』	
	文学国語 読2「小説1」	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	表現	教科書 『文学への扉 記号も言語の一種』	
				中間考査	
	論理国語 読2「近代という時代」	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	表現 環境	教科書 『環境問題と孤立した個人』	
	文学国語 読3「詩歌」	・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	表現	教科書 『平気—正岡子規』	
			期末考査		
2	論理国語 読3「メディアを問い直す」	・話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	表現	教科書 『おじいさんのランプ』	
	論理国語 書1 探究編「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。	表現	教科書 『社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く』	
	論理国語 書2 言葉のトレーニング 「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』	
	文学国語 読4「随筆2」	・長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	表現	教科書 『クレールという女』	
				中間考査	
	文学国語 読5「小説2」	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	表現	教科書 『舞姫』	
論理国語 読4「困難な時代に」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『社会の壊れるとき—知性的であるとはどういうことか』		
			期末考査		
	文学国語 書1「戯曲」	・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	表現	教科書 『父と暮せば』 『小説を脚本に書き換える』	
	論理国語 読5「自己と社会」	・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。	表現	教科書 『サッカーにおける「資本主義の精神」』	
			学年末考査		

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	国語表現	2	3年・英語人文コース(選択)	
教科書	『国語表現』大修館	副教材	『新訂版 正しく読み・解くための 力をつける現代文 ステップ2』数研出版	

1. 学習の目標

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。
 ・論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めま
 す。
 ・速読演習により、大学入試にも対応できる現代文の読解力を身につけます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習の必要はありません。表現力を高められるよう授業に意欲的に取り組むことが重要です。副教材を
 用いて制限時間の中で問題を解く場合は集中力が大切です。復習や定期考査対策としては教科書や
 プリントを読み返し、副教材の解答解説を利用しながら、文章の構成や表現の特徴、語彙、解答法など
 を確認・理解しましょう。振り返りシート等提出物をきちんと出しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を 理解しているか、習得すべき技能を身に付けているか を評価します。	・定期考査
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために 必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているか を評価します。	・定期考査 ・提出物(要約・レポート等課題)の内容 ・グループ発表及び個人での課題発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート ・グループ発表及び個人での課題発表に取り組む姿 勢 ・提出物(要約・レポート等課題)の提出状況と内容

4. 担当者からのメッセージ

それぞれの進路目標を実現するため、高い意識をもって授業に取り組んでくれることを期待します。国
 語力は生涯に渡って必要な力です。大学入試対策としてだけでなく、基礎力を着実に身につけ、論理的
 思考力や読解力を高め、豊かな表現力、コミュニケーション力を身につけられるよう励みましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	第1部 表現力を培う 1 言葉と出会う	・表記、慣用句、敬語について正しい知識を持ち、理解する。 ・接続表現の種類と働きを理解する。	表現	教科書p12～p34	
	速読演習・表現	・速読を意識し、テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉える。 ・解法のルールを意識する。	表現	副教材 評論(社会、文化、情報) 小説	
				中間考査	
	第1部 表現力を培う 2 伝える、伝え合う	・コミュニケーションの基礎となる「聞く」「話す」「伝え合う」ことの力を培う。 ・コミュニケーションの楽しさを感じる。	表現	教科書p36～p52	
	速度演習・表現	・テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・様々なジャンルの文章の解き方に慣れる。	国際 環境	副教材 評論(思想、科学) 随筆、小説	
				期末考査	
2	第1部 表現力を培う 3 小論文・レポート入門	・意見を筋道を立てて書く。 ・客観的で説得力のある文章を書く。	表現	教科書p54～p92	
	速読演習・表現	・長文に慣れ、筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・読解テーマについて深く掘り下げ、自分の考えを他者に伝える。	国際 表現	副教材 評論(文化、社会、言語、思想) 小説	
				中間考査	
	第1部 表現力を培う 5 メディアを駆使する	・メディアにより情報の伝え方が異なることを理解する。 ・メディアとの向き合い方、付き合い方を考える。	表現	教科書p128～p150	
	速読演習・表現	・テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・読解テーマに関連する意見をさまざまなメディアから集め、考えをまとめる。	表現 環境	副教材 評論(社会、科学) 随筆、小説	
第1部 表現力を培う 6 会話・議論・発表	話し合いのステップを意識して建設的な議論をする。	表現	教科書p152～p168		
				期末考査	
3	第2部 表現を楽しむ	言葉遊びを楽しみ、言葉の面白さを感じる。	表現	教科書p186～p191	
	速読演習・表現	・評論文の重要テーマについて考えが深まる。 ・語彙が増加し、文章表現力が身につく。	表現 環境	副教材 評論(社会、文化、言語、比較)	
				学年末考査	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	国語表現	2	3年・総合探究コース(選択)	
教科書	『国語表現』大修館	副教材	『新訂版 正しく読み・解くための 力をつける現代文 ステップ2』数研出版	

1. 学習の目標

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。
 ・論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。
 ・速読演習により、大学入試にも対応できる現代文の読解力を身につけます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習の必要はありません。表現力を高められるよう授業に意欲的に取り組むことが重要です。副教材を用いて制限時間の中で問題を解く場合は集中力が大切です。復習や定期考査対策としては教科書やプリントを読み返し、副教材の解答解説を利用しながら、文章の構成や表現の特徴、語彙、解答法などを確認・理解しましょう。振り返りシート等提出物をきちんと出しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 ・提出物(要約・レポート等課題)の内容 ・グループ発表及び個人での課題発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート ・グループ発表及び個人での課題発表に取り組む姿勢 ・提出物(要約・レポート等課題)の提出状況と内容

4. 担当者からのメッセージ

それぞれの進路目標を実現するため、高い意識をもって授業に取り組んでくれることを期待します。国語力は生涯に渡って必要な力です。大学入試対策としてだけでなく、基礎力を着実に身につけ、論理的思考力や読解力を高め、豊かな表現力、コミュニケーション力を身につけられるよう励みましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	第1部 表現力を培う 1 言葉と出会う	・表記、慣用句、敬語について正しい知識を持ち、理解する。 ・接続表現の種類と働きを理解する。	表現	教科書p12～p34	
	速読演習・表現	・速読を意識し、テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉える。 ・解法のルールを意識する。	国際 環境	副教材 評論(文化、環境、科学・情報、社会、経済)	
				中間考査	
	第1部 表現力を培う 2 伝える、伝え合う	・コミュニケーションの基礎となる「聞く」「話す」「伝え合う」ことの力を培う。 ・コミュニケーションの楽しさを感じる。	表現	教科書p36～p52	
	速度演習・表現	・テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・様々なジャンルの文章の解き方に慣れる。	表現 環境	副教材 小説、随筆 評論(科学、哲学)	
				期末考査	
2	第1部 表現力を培う 3 小論文・レポート入門	・意見を筋道を立てて書く。 ・客観的で説得力のある文章を書く。	表現	教科書p54～p92	
	速読演習・表現	・長文に慣れ、筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・読解テーマについて深く掘り下げ、自分の考えを他者に伝える。	国際 表現	副教材 評論(文化、社会、言語、思想) 小説	
				中間考査	
	第1部 表現力を培う 5 メディアを駆使する	・メディアにより情報の伝え方が異なることを理解する。 ・メディアとの向き合い方、付き合い方を考える。	表現	教科書p128～p150	
	速読演習・表現	・テーマに対する筆者(作者)の主張を正しく捉え、解答のこつを知る。 ・読解テーマに関連する意見をさまざまなメディアから集め、考えをまとめる。	表現 国際	副教材 評論(倫理、哲学) 随筆、小説	
				期末考査	
3	第2部 表現を楽しむ	言葉遊びを楽しみ、言葉の面白さを感じる。	表現	教科書p186～p191	
	速読演習・表現	・評論文の重要テーマについて考えが深まる。 ・語彙が増加し、文章表現力が身につく。	表現 環境	副教材 評論(文化、自然、言語、科学) 小説、	
				学年末考査	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典探究	2	3年生 英語人文コース	
教科書	『精選 古典探究』 (大修館書店)	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(いっずな書店) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』(桐原書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・1, 2年次に学習した基本的な知識や読解力を定着、伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。
- ・古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識を身につける。
- ・グループワークに積極的に参加することで自分以外の考えに触れ、深く作品を理解する。
- ・古文漢文ともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を復習してから考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 古典を読むために必要な語句や文法事項などを理解し、知識を身につけているか、また書かれたものを正確に読解できているかを評価します。	・定期考査 ・課題考査 ・小テスト
②思考・判断・表現 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか、書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈しているか、作品の内容と自分の知見を結び付けて考えを広げたり深めたりしているかを評価します。	・定期考査 ・パフォーマンス評価(発表・発言・記述等) ・提出された課題等
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強く取り組んでいるか、また、その取り組みの中で自らの学習を振り返り、調整できているかを評価します。	・自己評価 ・定期考査 ・提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてください。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を復習する。	表現	教科書 『古今著聞集』	
	漢詩	・古体詩の形式に関する知識を得ることで、既習の近体詩の特徴を理解する。 ・人生の哀歓や苦悩、社会に対する省察や批判等を読み取り、深く味わう。	表現 国際	教科書 「桃夭」 「飲酒」 「子夜呉歌」	
				中間調査	
	故事・逸話	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割を理解する。 ・1、2年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。	表現	教科書 「水魚の交わり」 「死せる諸葛 生ける仲達を走らす」	
	随筆	・作者のものの見方や感じ方、また教養などについて理解する。 ・書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。	表現	教科書 『枕草子』	
				期末調査	
2	物語(一)	・現代の社会と結びつけて古典文学の世界を理解する。 ・登場人物の言動から人物像を読み取る。	表現	教科書 『堤中納言物語』	
	史伝	・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命について考えを深める。 ・登場人物の描かれ方を考察し、巧みに描き分けられているそれぞれの人物を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める。	表現	教科書 「廉頗・藺相如」	
	文章	・唐宋八大家の一人である中唐の韓愈の作品を読み、作者の人生観や人間性について理解する。 ・作品の背景となる作者と社会とのかわり、特に作者の境遇との関連について考える。	表現 国際	教科書『師説』	
				中間調査	
	物語(二)	・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。 ・引歌表現や歌ことば、歌の修辞の効果について理解する。	表現	教科書 『源氏物語』	
史伝	・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命について考えを深める。 ・登場人物の描かれ方を考察し、巧みに描き分けられているそれぞれの人物を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める。	表現	教科書 「荊軻」		
				期末調査	
3	物語(二)	・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。 ・引歌表現や歌ことば、歌の修辞の効果について理解する。	表現	教科書 『源氏物語』	
	思想	・先人のものの見方、感じ方、考え方から、新たなものの見方、考え方を養う。 ・人間のあり方や生き方、ものの見方や考え方などについて理解し、その現代的意義について考える。	表現	教科書 『論語』	
				学年末調査	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典特講	2	3年生 総合探究コース (選択)	
教科書	『精選 古典探究』 (大修館書店)	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』(いいずな書店) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出 版)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・1・2年次に学習した基本的な知識や読解力をさらに定着、伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。
- ・グループワークに積極的に参加することで自分以外の考えに触れ、深く作品を理解する。
- ・登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を復習してから考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 古典を読むために必要な語句や文法事項などを理解し、知識を身につけているか、また書かれたものを正確に読解できているかを評価します。	・定期考査 ・小テスト
②思考・判断・表現 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか、書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈しているか、作品の内容と自分の知見を結び付けて考えを広げたり深めたりしているかを評価します。	・定期考査 ・パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強く取り組んでいるか、また、その取り組みの中で自らの学習を振り返り、調整できているかを評価します。	・自己評価 ・定期考査 ・提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてください。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を復習する。	表現	教科書 『古今著聞集』	
	漢詩	・古体詩の形式に関する知識を得ることで、既習の近体詩の特徴を理解する。 ・人生の哀歓や苦悩、社会に対する省察や批判等を読み取り、深く味わう。	表現 国際	教科書 「桃夭」 「飲酒」 「子夜呉歌」	
					中間考査
	故事・逸話	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割を理解する。 ・1、2年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。	表現	教科書 「水魚の交わり」 「死せる諸葛 生ける仲達を走らす」	
	随筆	・作者のものの見方や感じ方、また教養などについて理解する。 ・書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。	表現	教科書 『枕草子』	
					期末考査
2	物語(一)	・現代の社会と結びつけて古典文学の世界を理解する。 ・登場人物の言動から人物像を読み取る。	表現	教科書 『堤中納言物語』	
	史伝	・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命について考えを深める。 ・登場人物の描かれ方を考察し、巧みに描き分けられているそれぞれの人物を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める。	表現	教科書 「廉頗・藺相如」	
	文章	・唐宋八大家の一人である中唐の韓愈の作品を読み、作者の人生観や人間性について理解する。 ・作品の背景となる作者と社会とのかわり、特に作者の境遇との関連について考える。	表現 国際	教科書『師説』	
					中間考査
	物語(二)	・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。 ・引歌表現や歌ことば、歌の修辞の効果について理解する。	表現	教科書 『源氏物語』	
	史伝	・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命について考えを深める。 ・登場人物の描かれ方を考察し、巧みに描き分けられているそれぞれの人物を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める。	表現	教科書 「荊軻」	
				期末考査	
3	物語(二)	・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。 ・引歌表現や歌ことば、歌の修辞の効果について理解する。	表現	教科書 『源氏物語』	
	思想	・先人のものの見方、感じ方、考え方から、新たなものの見方、考え方を養う。 ・人間のあり方や生き方、ものの見方や考え方などについて理解し、その現代的意義について考える。	表現	教科書 『論語』	
					学年末考査

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	文学国語	2	3年生 環境理数コース	
教科書	『文学国語』 (東京書籍)	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』(いっぴな書店) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』(桐原書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識および技能)
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれた内容を正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法、文学史の知識/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 共感的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

皆さんの一生に残る文学との出会いがあると期待しています。ぜひ、想像の翼を大きく広げて下さい。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	読1「随筆1」	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	表現 国際	教科書 『国語から旅立って』	
	読2「小説1」	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	表現	教科書 『檸檬』 「文学への扉 記号も言語の一種」	
				中間考査	
	読3「詩歌」	・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	表現	教科書 『平気—正岡子規』	
				期末考査	
2	文学国語 読4「随筆2」	・長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	表現	教科書 『クレールという女』	
				中間考査	
	文学国語 読5「小説2」	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	表現	教科書 『舞姫』	
				期末考査	
3	文学国語 書1「戯曲」	・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	表現	教科書 『父と暮せば』 「小説を脚本に書き換える」	
				学年末考査	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	文学国語	2	3年生 総合探究コース	
教科書	『文学国語』 (東京書籍)	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識および技能)
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれた内容を正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法、文学史の知識／読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 共感的に／豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力／読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

皆さんの一生に残る文学との出会いがあると期待しています。ぜひ、想像の翼を大きく広げて下さい。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	文学国語 読1「随筆1」	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	表現 国際	教科書 『国語から旅立って』	
	論理国語 読1「言葉を再考する」	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	表現 国際	教科書 『言語と記号』	
	文学国語 読2「小説1」	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	表現	教科書 『文学への扉 記号も言語の一種』	
				中間考査	
	論理国語 読2「近代という時代」	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	表現 環境	教科書 『環境問題と孤立した個人』	
	文学国語 読3「詩歌」	・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	表現	教科書 『平気—正岡子規』	
			期末考査		
2	論理国語 読3「メディアを問い直す」	・話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	表現	教科書 『おじいさんのランプ』	
	論理国語 書1 探究編「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。	表現	教科書 『社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く』	
	論理国語 書2 言葉のトレーニング「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』	
	文学国語 読4「随筆2」	・長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	表現	教科書 『クレールという女』	
				中間考査	
	文学国語 読5「小説2」	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	表現	教科書 『舞姫』	
論理国語 読4「困難な時代に」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『社会の壊れるとき—知性的であるとはどういうことか』		
			期末考査		
	文学国語 書1「戯曲」	・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	表現	教科書 『父と暮せば』 『小説を脚本に書き換える』	
	論理国語 読5「自己と社会」	・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。	表現	教科書 『サッカーにおける「資本主義の精神」』	
			学年末考査		

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	論理国語	2	3年生 環境理数コース	
教科書	『精選 論理国語』 (東京書籍)	副教材	『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 このは』(い いずな書店) 『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(知識および技能)
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などを理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識/情報の扱い方/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

読む力も書く力も、一朝一夕には身につけません。こつこつ頑張りましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	読1 「言葉を再考する」	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	国際 表現	教科書 『言語と記号』	
	読2 「近代という時代」	・さまざまな異世界との比較を通して、自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。	国際 表現	教科書 『鏡の中の現代社会』	
	中間考査				
	読2 「近代という時代」	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	表現 環境	教科書 『環境問題と孤立した個人』	
	書1 言葉のトレーニング 「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』	
期末考査					
2	読3 「メディアを問い直す」	・話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	表現	教科書 『おじいさんのランプ』	
	書2 探究編 「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。	表現	教科書 「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	
	中間考査				
	読4 「他者のいる思考」	・意志や自由について論じた評論を読み、哲学的な思考の方法を理解する。	表現	教科書 『ロボットは意志を持つか』	
	読5 「困難な時代に」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『社会の壊れるとき—知性的であるとはどういうことか』	
期末考査					
3	読6 「自己と社会」	・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。	表現	教科書 『サッカーにおける「資本主義の精神」』	
学年末考査					

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	論理国語	2	3年生 英語人文コース	
教科書	『精選 論理国語』 (東京書籍)	副教材	『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 このは』(い いずな書店) 『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(知識および技能)
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などを理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識/情報の扱い方/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

読む力も書く力も、一朝一夕には身につけません。こつこつ頑張りましょう。

令和6年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	文学国語	2	3年生 英語人文コース	
教科書	『文学国語』 (東京書籍)	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識および技能)
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれた内容を正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法、文学史の知識／読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 共感的に／豊かに考えられているかどうか、他者と関わりの中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力／読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

皆さんの一生に残る文学との出会いがあると期待しています。
ぜひ、想像の翼を大きく広げて下さい。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	文学国語 読1「随筆1」	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	表現 国際	教科書 『国語から旅立って』	
	論理国語 読1「言葉を再考する」	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	表現 国際	教科書 『言語と記号』	
	文学国語 読2「小説1」	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	表現	教科書 『檸檬』 「文学への扉 記号も言語の一種」	
				中間考査	
	論理国語 読2「近代という時代」	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	表現 環境	教科書 『環境問題と孤立した個人』	
	文学国語 読3「詩歌」	・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	表現	教科書 『平気—正岡子規』	
			期末考査		
2	論理国語 読3「メディアを問い直す」	・話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	表現	教科書 『おじいさんのランプ』	
	論理国語 書1 探究編「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。	表現	教科書 「社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く」	
	論理国語 書2 言葉のトレーニング 「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』	
	文学国語 読4「随筆2」	・長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	表現	教科書 『クレールという女』	
				中間考査	
	文学国語 読5「小説2」	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	表現	教科書 『舞姫』	
論理国語 読4「困難な時代に」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『社会の壊れるとき—知性的であるとはどういうことか』		
			期末考査		
	文学国語 書1「戯曲」	・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	表現	教科書 『父と暮せば』 「小説を脚本に書き換える」	
	論理国語 読5「自己と社会」	・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。	表現	教科書 『サッカーにおける「資本主義の精神」』	
			学年末考査		

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	日本史探究	5	3年総合探究コース・英語人文コース	
教科書	日本史探究 詳説日本史 (山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

○我が国の歴史と文化の展開を各時代の国際環境や地理的な条件と関連づけて、理解できるようにします。○学習内容と現代の諸事情を常に関連させ、現代社会から過去を照射する力を養うと共に、歴史の基本的内容を理解した上で、我が国の将来につながる課題を多面的・多角的に考察して自ら考え解決していく力をみにつけます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業で触れる歴史用語は、歴史の大河のごく一部です。興味・関心のある事象やその周縁部を掘り起こすためには、事前に教科書に目を通して、わからない、疑問に思ったことをインターネットや身近な情報端末を利用して、自ら調べること、そこで生まれた疑問を次の一歩にしていけること、そんな学び方が大事です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	日本の歴史の転換に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能が身につけているか。 ※定期テスト、小テストを中心に評価します。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	日本の歴史に見え隠れする事象の本質に問題を見だし、それを科学的に分析・考察し自分なりの歴史観を醸成でき、他者に対して表現、説明できるか。 ※授業プリントまたはノート、発表などを中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	日本の歴史の展開にかかわる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を設定し、主体的に探究しようとする態度がみられるか。 ※授業プリントまたはノート提出、レポート提出および発表・発問など授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

複雑化・流動化する国際社会のなかで、日本のとるべき針路を日本の歴史を通観、または先人達が時々の課題をどのように解決してきたかを探究することによって、主体的に考察していきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	日本文化のあけぼの ・原始(旧石器・縄文時代) ・古代(弥生時代) 古墳とヤマト政権 ・古代(古墳時代) ・古代(飛鳥時代・白鳳時代) 律令国家の形成 ・古代(奈良時代) ・古代(平安時代) ※律令制の再建期	<input type="checkbox"/> 旧石器時代、新石器時代の文化・生活の対比がビジュアルにできる。 表現 <input type="checkbox"/> 農耕文化の始まりとそれによる社会構造の変化を理解できる。 <input type="checkbox"/> 中国の史書に表れる日本の姿を具体的に理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 古代の対外関係通観 国際 <input type="checkbox"/> 古墳文化の変遷の中でヤマト政権の規模や性格の変化が把握できる。 <input type="checkbox"/> 律令国家が東アジアの大きな変動の中で生まれたことが理解できる。 国際 <input type="checkbox"/> 古代文化における大陸文化の影響が理解できる。 国際 <input type="checkbox"/> 律令制度の仕組み・性格が理解できる。 <input type="checkbox"/> 国家仏教の特徴とその影響下での奈良の政治の変遷が理解できる。 <input type="checkbox"/> 古代の仏教(顕教、密教、神仏習合など)の基本的知識が理解できる。 <input type="checkbox"/> 平安初期の政治の課題が理解できる。 <input type="checkbox"/> 藤原北家の制覇の過程とその特徴が理解できる。	考古実物資料の素描 史料の講読 グループ学習・討論・発表 課題(古代国名 律令制)提出 ノート(ファイル)提出 史料の講読 課題(平安京の作図)提出 グループ学習・討論・発表 中間考査
	貴族政治の展開 ※摂関政治と国風文化 ※荘園制度 ※武士の登場 武家社会の成立 ※院政と平氏政権 ・中世(鎌倉時代) 武家社会の成長 ・中世(室町時代) ※南北朝時代 ※庶民の台頭 ※戦国大名の登場	<input type="checkbox"/> 摂関政治の性格と貴族政治の特徴が理解できる。 <input type="checkbox"/> 公地公民制から初期荘園制、荘園公領制へ変化する流れが理解できる。 <input type="checkbox"/> 地方政治の乱れと武士の登場、台頭の流れが理解でき <input type="checkbox"/> 平安時代の文化の変遷を通観できる。 <input type="checkbox"/> 院政期以降のダイナミックなシステムの変化が理解でき <input type="checkbox"/> 院政期の文化を絵巻物などで把握できる。 表現 <input type="checkbox"/> 武家政権と公家政権の二重政権が理解できる。 <input type="checkbox"/> 蒙古襲来の影響と前後の武家社会の変質が理解できる。 国際 <input type="checkbox"/> 鎌倉仏教を始め中世仏教の特色が理解できる。 <input type="checkbox"/> 鎌倉・室町時の経済を比較して理解できる。 <input type="checkbox"/> 南北朝の動乱から室町幕府成立の流れを理解できる。 <input type="checkbox"/> 一揆の変遷とその特色が理解できる。 <input type="checkbox"/> 戦国大名の施策・特色が理解できる。	課題(年中行事の整理)提出 ノート(ファイル)提出 史料の講読 課題(鎌倉幕府政治機構図等)提出 グループ学習・討論・発表 課題(職人の世界)提出 課題(戦国群雄割拠図)提出 ノート(ファイル)提出 期末考査
2	近世の幕開け ・近世(安土・桃山時代) 幕藩体制の成立と展開と動揺 ・近世(江戸時代) ※幕政の安定 ※経済の発展 ※江戸の文化 ※幕政の改革 ※幕政の衰退と近代化	<input type="checkbox"/> 世界史とリンクさせてヨーロッパ人の来航とその影響が理解できる。 国際 <input type="checkbox"/> 太閤検地の歴史的意義が理解できる。 表現 <input type="checkbox"/> 秀吉の外交政策(特に朝鮮関係)が理解できる。 <input type="checkbox"/> 幕藩体制の確立につながる諸政策を整理、理解できる。 <input type="checkbox"/> 四～十二代将軍の治世や改革の特徴を俯瞰的に理解できる。 <input type="checkbox"/> 江戸時代の経済・流通について多角的に把握できる。 環境 <input type="checkbox"/> 幕府の諸改革の正負を多角的に把握できる。 <input type="checkbox"/> 現代にも続く庶民文化の源流から流れを通観できる。	史料の講読 グループ学習・討論・発表 課題(江戸幕府職制・政治機構図等)提出 課題(江戸流通経済の仕組み) ノート(ファイル)提出 中間考査
	近代国家の成立 ・近代(明治時代) ※開国と幕末の動乱 ※明治維新と富国強兵 ※立憲国家の成立と日清戦争 ※日露戦争と国際関係	<input type="checkbox"/> 外圧と開国の中で幕府が倒壊する流れ把握するなかで近代国家の成立の要因を理解する。 国際 <input type="checkbox"/> 「歴史総合」の学習とリンクさせながら明治維新～立憲国家の成立について特徴と影響を通観する。 国際 表現 <input type="checkbox"/> 世界史的視野で明治期の二つの戦争の意義・影響を整理できる。 国際	グループ学習・討論・発表 課題(列強の中国分割地図)提出 ノート(ファイル)提出 期末考査
3	・大正時代		資料・データ分析
	※近代産業の発達 ※第一次大戦と日本	<input type="checkbox"/> 近代産業の発展のなかで起こる労働問題を初めとする社会問題を考察することによって、日本の経済構造の特色を把握する。 環境 「歴史総合」の学習とリンクさせ、第一次大戦の日本の立ち位置とその後の日本外交の特色を通観する。 国際 表現	グループ学習・討論・発表 学年末考査

□チェック欄 ※ノート(ファイル)提出はロイロノートでの提出もあり

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	日本史特講	2	3年 英語人文コース	
教科書	日本史探究 詳説日本史 (山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

「歴史総合」で培った知識・技能をもとに近代100年間(2025年、今年が昭和100年)の日本の歩んだ道(日中戦争～第二次大戦～戦後の経済成長と停滞)を政治・外交・経済・文化の諸視点から探究することによって現代日本の進むべき道を浮き彫りにしていきましょう。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

歴史を学ぶことは単に過去に何があったか理解するだけではなく、そこから現代に続く課題を見つけ解決の道しるべを導き出す事です。特にこの近代100年、もしもあのとき別の選択をしていたらという仮説を絶えず立てて探究する姿勢が大事です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	日本の近代史の転換に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能が身につけているか。 ※定期テスト、小テストを中心に評価します。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	日本の近代史に見え隠れする事象の本質に問題を見だし、それを科学的に分析・考察し自分なりの歴史観を醸成でき、他者に対して表現、説明できるか。 ※授業プリントまたはノート、発表などを中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	日本の近代史の展開にかかわる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を設定し、主体的に探究しようとする態度がみられるか。 ※授業プリントまたはノート提出、レポート提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

2022年末、タレントのタモリさんが、テレビ番組『徹子の部屋』で、黒柳徹子さんの「来年はどのような年になると思いますか」という質問に対して「新しい『戦前』になるんじゃないでしょうか」と答えておられました。どういう意味でしょう。近代100年を探究しながら一緒に考えていきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	近代国家の展開 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化	<input type="checkbox"/> 第一次大戦での日本の立ち位置が理解できる。 国際 <input type="checkbox"/> 20年代、日本が協調外交路線をとった流れを国内情勢とリンクさせて理解できる 国際 <input type="checkbox"/> 現代に続く当時の大衆文化の様を多角的に理解できる。 表現	史料講読 ノート(ファイル)提出 討論・発表など 中間考査
	恐慌と第二次世界大戦 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭	<input type="checkbox"/> 20年代の慢性的不況の推移が理解できる。 <input type="checkbox"/> 30年代の軍部の台頭と対中戦争、それを支えた国内の動向が多角的に理解できる。 国際	史料講読 ノート(ファイル)提出 期末考査
2	・第二次世界大戦	<input type="checkbox"/> 対米戦争に至る流れ、戦争の推移、終結に至る流れを年表などで把握できる。 国際 <input type="checkbox"/> 具体的に戦時下の国民生活が理解できる。 表現	史料講読 DVD(太平洋戦争)視聴とレポート提出 討論・調査・発表 ノート(ファイル)提出 中間考査
	占領下の日本 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 高度経済成長の時代	<input type="checkbox"/> 戦後の民主化政策を体系的に理解できる。 <input type="checkbox"/> 冷戦の中で「逆コース」の流れと日米安保条約締結の意味が理解で <input type="checkbox"/> 高度成長の要因と推移だけではなく負の遺産も併せて理解できる。 環境	史料講読 ノート(ファイル)提出 期末考査
3	激動する世界と日本 ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本の動揺	<input type="checkbox"/> 1970年代以降の国内政治、経済の動きを俯瞰できる。 <input type="checkbox"/> 現代日本の課題を関連分野とリンクさせて把握できる。 国際 環境 表現	史料講読 ノート(ファイル)提出 学年末考査

□チェック欄 ※ノート(ファイル)提出はロイロノートでの提出もあり

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	世界史特講	2	3年英語人文コース	
教科書	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を涵養するために、課題を追究したり解決したりする活動も取り入れながら、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・近現代の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、近現代の歴史が理解できる。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期考査を中心に、小テスト等も交えて評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、問題提起したりできる。 ※定期考査、提出物、発表等を中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 ・諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。 ※定期考査やプリント・ノート・レポート提出、発表、授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

諸地域が多様なネットワークで結ばれ、それぞれの地域の内部構造が変容していく「世界の一体化」が進んでいった近現代。西欧諸国からアメリカ合衆国、さらにソ連、日本、中国などへと、世界の一体化の推進源がめまぐるしく移動していく世界の姿から、現在の世界の課題を見出し、解決への手掛かりを探るための知識・思考力の獲得を目指します。

年間学習計画			
学期	学習内容	学習活動	
1	第Ⅲ部 諸地域の統合・変容 第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	<div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div> <p> <input type="checkbox"/>産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解する。 <input type="checkbox"/>アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのか理解し、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解する。 <input type="checkbox"/>中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解する。 <input type="checkbox"/>19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解する。 <input type="checkbox"/>南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解する。 <input type="checkbox"/>19世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>オスマン帝国における動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解する。 <input type="checkbox"/>ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解し、植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解する。 </p>	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 など 中間考査 期末考査
	2	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	<div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div> <p> <input type="checkbox"/>資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解し、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解する。 <input type="checkbox"/>第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。 <input type="checkbox"/>資料をもとに、第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、1920年代の欧米各国における変容を理解し、多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。 <input type="checkbox"/>世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊に至る経緯やファシズム諸国の動きについて理解する。 <input type="checkbox"/>第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 <input type="checkbox"/>第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それ以前との相違点をふまえて理解する。 <input type="checkbox"/>冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響などとあわせて理解する。 <input type="checkbox"/>冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのかや、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解する。 <input type="checkbox"/>ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解する。 </p>
3	第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	<div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div> <p> <input type="checkbox"/>1960~80年代の各国の経済や社会の状況を、経済構造の変化をふまえて理解する。 <input type="checkbox"/>資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/>冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解する。 <input type="checkbox"/>現代思想・文化の特徴をそれまでの文化・思想と比較したうえで理解し、人々の世界観や生活の有り様の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 </p>	課題(ノート)提出 グループ学習 など 学年末考査

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
公民	政治経済	2	3年英語人文コース	
教科書	最新政治・経済 新訂版(実教出版)	副教材		

1. 学習の目標

ますます複雑になる経済の動きの科学的な知識を身につけることから始めて、世界の動きと自分たちの暮らしがどのようにつながるかを理解します。それらの事柄が、単なる偶然でも、どうすることもできない現象ではないことを学んでいきます。単純に社会の動きに関心を持つだけでなく、科学的・合理的に社会を理解し、主権者としてどのような立場に立つかを考えていきます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習を中心に、定期的に家庭学習の時間を設ける。授業で出てきた用語を用語集等使って調べたり、関連の事柄を新聞やインターネット等を使って深める癖を付けることで、自ら調べ知識を付ける力を付ける。今何を学習しているのかを常に確認しながら授業を受け、現代の社会で問題になっている具体的な事柄と結びつけながら考えられるようになる。そのため、新聞やニュースにも関心を持って知識を深める努力ができる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	思考判断のもととなる資料等の読み取り・理解、自分の考えを伝える、書く・発表する・発現する力定期テストでの論述問題・レポート内容・発表内容
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	問題点について考える能力定期テストでの論述問題・レポート内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、授業プリント・課題・レポートの提出状況

4. 担当者からのメッセージ

直接受験科目になくても、進学する人にとって、最低限必要で、かつ役に立つ知識ばかりです。就職する人にとっては、社会に出て必要となる知識をきちんと学ぶ最後のチャンスです。是非、主体的に学んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	経済社会の変容	近代から現在に至る、経済の変化を大まかに理解し、代表的な経済学説と各国の経済政策の移り変わりを学ぶ。	小レポート
	現代経済の仕組み	資本主義経済の原理を学ぶ 貨幣経済と商品経済 市場原理 独占と寡占 企業と資本	中間考査
	現代経済の仕組み	中間考査の範囲の続き 市場の失敗 財政政策 金融の働き 金融政策	
	現代の日本経済と福祉の向上	福祉と経済 労働と経済 戦後の復興から高度成長	小レポート 期末考査
2	現代の日本経済と福祉の向上	石油危機公害問題 安定成長と貿易摩擦 バブル経済 失われた10年	テーマ学習・小レポート等
	現代の国際経済	国際経済の原理と共に現在の日本と世界経済の仕組みと課題を学ぶ 貿易のあり方 外国為替の仕組み 経済のグローバル化	中間考査
	現代の国際経済 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">国際</div>	中間考査範囲の続き 金融産業の発展 格差の拡大 今後の課題	テーマ学習・小レポート等
	現代国家と民主主義	日本の政治制度と日本国憲法を学ぶ 日本の国会 日本の内閣 日本の司法 地方自治 憲法と人権	期末考査
3	現代の国際政治	国際社会のあり方と国連の働きを学ぶ 国際社会とは 国際法と国際紛争 国際連合 冷戦とその後	学年末考査

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
公民	政治経済	2	3年総合探究コース	
教科書	最新政治・経済 新訂版(実教出版)	副教材		

1. 学習の目標

ますます複雑になる経済の動きの科学的な知識を身につけることから始めて、世界の動きと自分たちの暮らしがどのようにつながるかを理解します。それらの事柄が、単なる偶然でも、どうすることもできない現象ではないことを学んでいきます。単純に社会の動きに関心を持つだけでなく、科学的・合理的に社会を理解し、主権者としてどのような立場に立つかを考えていきます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習を中心に、定期的に家庭学習の時間を設ける。授業で出てきた用語を用語集等使って調べたり、関連の事柄を新聞やインターネット等を使って深める癖を付けることで、自ら調べ知識を付ける力を付ける。今何を学習しているのかを常に確認しながら授業を受け、現代の社会で問題になっている具体的な事柄と結びつけながら考えられるようになる。そのため、新聞やニュースにも関心を持って知識を深める努力ができる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	思考判断のもととなる資料等の読み取り・理解、自分の考えを伝える、書く・発表する・発現する力定期テストでの論述問題・レポート内容・発表内容
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	問題点について考える能力定期テストでの論述問題・レポート内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、授業プリント・課題・レポートの提出状況

4. 担当者からのメッセージ

直接受験科目になくても、進学する人にとって、最低限必要で、かつ役に立つ知識ばかりです。就職する人にとっては、社会に出て必要となる知識をきちんと学ぶ最後のチャンスです。是非、主体的に学んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	経済社会の変容	近代から現在に至る、経済の変化を大まかに理解し、代表的な経済学説と各国の経済政策の移り変わりを学ぶ。	小レポート
	現代経済の仕組み	資本主義経済の原理を学ぶ 貨幣経済と商品経済 市場原理 独占と寡占 企業と資本	中間考査
	現代経済の仕組み	中間考査の範囲の続き	
	現代の日本経済と福祉の向上	市場の失敗 財政政策 金融の働き 金融政策 福祉と経済 労働と経済 戦後の復興から高度成長	小レポート 期末考査
2	現代の日本経済と福祉の向上	石油危機公害問題 安定成長と貿易摩擦 バブル経済 失われた10年	テーマ学習・小レポート等
	現代の国際経済	国際経済の原理と共に現在の日本と世界経済の仕組みと課題を学ぶ 貿易のあり方 外国為替の仕組み 経済のグローバル化	中間考査
	現代の国際経済	中間考査範囲の続き 金融産業の発展 格差の拡大 今後の課題	テーマ学習・小レポート等
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">国際</div> 現代国家と民主主義	日本の政治制度と日本国憲法を学ぶ 日本の国会 日本の内閣 日本の司法 地方自治 憲法と人権	期末考査
3	現代の国際政治	国際社会のあり方と国連の働きを学ぶ 国際社会とは 国際法と国際紛争 国際連合 冷戦とその後	学年末考査

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	地理探究	4	第3学年・環境理数コース	
教科書	新詳地理探究（帝国書院）	副教材	地理資料COMPLITE2025（帝国書院）	

1. 学習の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

「地理探究」では作業的で具体的な体験を伴う学習を踏まえ、さらに地理的技能の習熟を促すとともに、「地理総合」の学習において働かせ、鍛えてきた「社会的事象の地理的な見方・考え方」を、引き続き「主体的・対話的で深い学び」を通して、さらに働かせ、鍛えていけるよう内容や方法を工夫している。現代世界や我が国が抱える諸課題について、主に主題的な方法を基にして学習します。地球上で見られる地理的課題が「なぜそうなのか?」、「なぜそうなるのか?」という思考が必要であり、その考えを適切な方法で説明（表現）することが求められます。日頃から世界や身近な地域の出来事に関心を持ち、常に「はてな?」の気持ちを持ちながら、自分なりの答えを探究できる姿勢を養ってください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。 ②地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ③調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像について認識を深めている。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ②考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた取り組みを行おうとしている。 ②よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ③地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4. 担当者からのメッセージ

ノートを写す事で満足せず、講義内容やグループ討論の内容をまとめ記録するようにしましょう。授業ではパワーポイント、Google Earth、映像等を使用するため、集中を欠くと次の話題に移ってしまうので注意してください。家庭では学習内容について教科書を用いて復習をするとともに、世界を話題にしたテレビ番組を視聴し、ネットニュースもこまめにチェックしてください。通年で身近な地域・世界の諸地域における課題解決のための探究的活動を行うので、1年を通じて自分のキャリア設計に寄与できる探究テーマについても調べておいてください。なお、地誌分野はグループによる調査・発表による学習を行います。

3年生 地理探究 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	(1) 自然環境	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<div style="text-align: center;">   </div> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>
1	(2) 資源と産業	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<div style="text-align: center;">   </div> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>
1 5 2	<p>現代世界の諸地域 次の11地域についてチーム単位で探究し発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国 ・韓国 ・ASEAN諸国 ・インド ・西アジアと中央アジア ・北アフリカとサハラ以南アフリカ ・EU諸国 ・ロシア ・アメリカ合衆国 ・ラテンアメリカ ・オーストラリアとニュージーランド 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<div style="text-align: center;">  </div> <p>調査・探究 活動 発表 ふりかえり</p>

2	(3) 交通・通信と観光, 貿易	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象をもとに, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 交通・通信, 観光に関わる問題の現状や要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象について, 場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して, 主題を設定し, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信, 観光について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<p>国際</p> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>
2	(4) 人口, 村落・都市	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口, 都市・村落などに関わる諸事象をもとに, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 人口, 居住・都市問題の現状や要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口, 都市・村落などに関わる諸事象について, 場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して, 主題を設定し, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口, 村落・都市について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<p>国際</p> <p>環境</p> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>
	(5) 生活文化, 民族・宗教	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化, 民族・宗教などに関わる諸事象をもとに, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 民族, 領土問題の現状や要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化, 民族・宗教などに関わる諸事象について, 場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して, 主題を設定し, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化, 民族・宗教について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	<p>国際</p> <p>環境</p> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>

3	<p>(6) 持続可能な国土像の探究</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。 	<p style="text-align: center;">国際</p> <p>講義 演習 定期考査 レポート</p>
---	------------------------	---	---

* 小单元ごとのルーブリックは別紙参照

* 状況に応じて単元の入替をおこなう

		主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力	技能	知識
評価規準		日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
1章	日本文化のあけぼの	日本の原始社会に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	地域に残る遺跡から原始社会について考察するとともに、その成立過程や特徴を適切に表現している。	地域に残る遺跡や博物館などを訪ねるなどして原始社会の文化の特色に関する諸資料を収集し、原始社会の様子を調べるための情報を適切に選択している。	原始社会がまだ貧しいがゆえに平等な社会構造であったことを理解し、その知識を身に付けている。農耕の開始によって権力者があられ、クニができあがってくることを理解し、その知識を身に付けている。
2章 3章 4章	古墳とヤマト政権 律令国家の形成 貴族政治の展開	古代国家としての奈良や京都、奈良時代や平安時代の文化に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	古代国家が東アジアの動向と関連して成立したことを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	古代国家の確立に関する史料を読み、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	古代国家が天皇を中心に成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。古代国家と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。奈良時代は律令制の時代であったことを理解し、その知識を身に付けている。平安時代は律令制が変質し、荘園を中心とした社会になってきたことを理解し、その知識を身に付けている。
5章 6章	院政と武士の躍進 武家政権の成立	武士の出現や武士の生活や鎌倉時代の出来事に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	武士の出現や武家政権の成立について、その文化や特色と関連付けながら考察し、適切に表現している。	中世社会の成立に関する諸資料を収集し、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。鎌倉時代の寺社や仏像をみてその社会や文化の特徴を読み取ることができる。	武士が土地の所領関係でむすびについていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。
7章	武家社会の成長	中世社会が二つの勢力にわかれ争っていることや戦国大名の出現に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	南北朝の内乱、室町時代、戦国時代のそれぞれの時代について、出来事や文化に着目しながら考察し、適切に表現している。	室町時代の建築物や庭園から、その社会や文化の特徴を読み取ることができる。また全国各地の城跡から戦国時代の社会や文化の特徴に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	鎌倉幕府が滅亡したあと、全国の武士や悪党が二つにわかれて戦ったことを理解し、その知識を身に付けている。室町幕府と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。守護大名の時代から下克上を経て戦国大名が出現してくることを理解し、その知識を身に付けている。村の自治がしだいに成長してくることを理解し、その知識を身に付けている。

8章 9章	近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	統一政権の成立にいたる過程、「鎖国」やキリスト教の日本への影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程や、徳川家康の築いた江戸幕府のシステムの特徴について考察し、適切に表現している。	織豊政権や徳川時代に関する史料や絵巻などの諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。五街道などを調べることで、この時期に江戸と諸地域の関係がどう形成されていくかを読み取ったり図表などにまとめたりしている。	天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこなわれていることを理解し、その知識を身に付けている。封建社会が百姓から年貢をとることによって成り立っていくことを理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の特徴を理解し、その知識を身に付けている。江戸幕府の貿易の特徴と禁教令の関係を理解し、その知識を身に付けている。
10章	幕藩体制の動揺	幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	幕府の改革についてそれぞれの特徴をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。	地域に残るお墓、義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	幕藩制度が安定するときの特徴を理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。
11章 12章 13章 14章 15章	近世から近代へ 近代国家の成立 近代国家の展開 近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦	開国から幕府の滅亡にいたる過程、新政府の政策に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。欧米の文化・思想が日本の文化に与えた影響、日本を取り巻く国際環境の変化などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	江戸幕府が倒れていく過程や新政府がとった政策とその結果について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	浮世絵や風刺漫画などから明治維新、文明開化、自由民権運動などの様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	開国が与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。討幕運動の特徴を理解し、その知識を身に付けている。新政府の政策の特徴を理解し、その知識を身に付けている。自由民権運動の内容を理解し、その知識を身に付けている。
16章 17章	占領下の日本 高度成長の時代	日清、日露戦争とその前後のアジアや欧米諸国との関係の推移、大正デモクラシーや民衆の台頭、第1次世界大戦とその影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本の国内事情や当時の国際関係に着目しつつ、日清、日露戦争と第1次世界大戦の経過やその結果について考察し、適切に表現している。	風刺漫画や雑誌・新聞などの諸資料を収集し、当時の民衆の姿を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日清・日露戦争のそれぞれの性格と特徴を理解し、その知識を身に付けている。植民地支配の特徴と植民地からの抵抗について理解し、その知識を身に付けている。大正デモクラシーの特徴を理解し、その知識を身に付けている。
18章	激動化する世界と日本	第2次世界大戦へいたる経過とその結果、アジア近隣諸国との関係などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本国内の政治、経済の状況と世界の動向を関連付けながら、日本のおこなった戦争の性格について考察し、適切に表現している。	地域に残る戦争遺跡を訪ねるなどして第2次世界大戦に関する諸資料を収集し、戦争の様子を調べるための情報を適切に選択している。	戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどのような性格であったかを理解し、その知識を身に付けている。戦時中の日本とアジア諸国の関係を理解し、その知識を身に付けている。
16章 17章	占領下の日本 高度成長の時代	戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。	新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	戦後は基本的人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。
18章	激動化する世界と日本	経済の発展や国際社会における日本の役割、現代日本のかかえる課題などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。	戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。21世紀の展望をもつ。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	世界史探究	5	3年英語人文コース	
教科書	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	古代・中世・近世の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、古代・中世・近世の歴史が理解できる。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期考査を中心に評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、それらをもとに議論したりできる。 ※定期考査、授業プリントまたはノート、発表などを中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。 ※授業プリントまたはノート提出・レポート・提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

各地域特有の自然環境や地理的条件のもとで独自の文化的枠組みが作り出され、諸地域間の交流が限られた中で行われた古代・中世・近世。互いに影響し合いながら変化し、近代へと向かっていく世界の姿を、近現代の様相と関連付けながら学んでいきます。

年間学習計画

学期	学習内容		学習活動	
1	世界史へのまなざし1 世界史へのまなざし2	<input type="checkbox"/> 人類の誕生と進化の過程の概要を理解する。 <input type="checkbox"/> 砂糖とコーヒーを事例として、自らと世界史のつながりについて考察する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> </div>	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間審査 期末審査	
	第I部 諸地域の歴史的 特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明 の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその 周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 第2章 中央ユーラシアと 東アジア世界 1 中央ユーラシア 草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成 第3章 南アジア世界と 東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの 統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー 教の定着 3 東南アジア世界の形成と 展開	<input type="checkbox"/> 文明誕生の基礎について理解する。 <input type="checkbox"/> オリエントの風土と、その文明の歴史的 特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 南アジアの古代文明について多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 東アジア各地の風土が、多様な生業と文化を生み出し、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解する。 <input type="checkbox"/> 南北に長いアメリカ大陸各地で、様々な先住民文化が栄えたことを理解する。 <input type="checkbox"/> 中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土について理解し、騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 秦・漢といった統一国家の支配体制について理解する。 <input type="checkbox"/> 遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解する。 <input type="checkbox"/> 南アジアで生まれた宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解する。 <input type="checkbox"/> グプタ朝における宗教や文化の展開を理解し、ヒンドゥー教が南アジア社会に根付いていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 東南アジアの風土や地英をふまえたうえで、どのように国家が形成されたのかを理解し、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。		<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>
2	第4章 西アジアと地中海周辺 の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン 文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 第5章 イスラーム教の成立と ヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とイスラーム 政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成 第II部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への 伝播 2 西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容 と展開 1 西ヨーロッパの封建社会と その展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第8章 東アジア世界の展開と モンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国 第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の変容	<input type="checkbox"/> イラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解し、世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 古代ギリシアの社会や文化の特徴を理解する。 <input type="checkbox"/> ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> 当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> イスラーム教がどのように成立し短期間で勢力を拡大していったのかを理解し、西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/> </div> <input type="checkbox"/> 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解する。 <input type="checkbox"/> トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 中世の西ヨーロッパにおけるローマ＝カトリック教会や十字軍遠征、商業の発達について理解する。 <input type="checkbox"/> ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解する。 <input type="checkbox"/> 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパの動きを理解する。 <input type="checkbox"/> 中世の西ヨーロッパの文化について、キリスト教の影響が大きかったことを理解する。 <input type="checkbox"/> 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 <input type="checkbox"/> モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解する。 <input type="checkbox"/> 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解する。	<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間審査 期末審査
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域 第11章 近世ヨーロッパ世界の 動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの 台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	<input type="checkbox"/> オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> ムガル帝国の支配の経緯と宗教的施策について理解する。 <input type="checkbox"/> 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/> </div> <input type="checkbox"/> ルネサンスの特徴や広がり、後世に与えた影響を理解し、多面的・多角的に考察し表現している。 <input type="checkbox"/> 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解する。 <input type="checkbox"/> 主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較した上で理解する。 <input type="checkbox"/> オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解する。 <input type="checkbox"/> 北欧・東欧の各国関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 <input type="checkbox"/> 科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解し、社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	世界史探究	5	3年総合探究コース	
教科書	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	古代・中世・近世の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、古代・中世・近世の歴史が理解できる。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期考査を中心に評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、それらをもとに議論したりできる。 ※定期考査、授業プリントまたはノート、発表などを中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 諸課題を主体的に解決しようとする取り組みができる。 ※授業プリントまたはノート提出・レポート・提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

各地域特有の自然環境や地理的条件のもとで独自の文化的枠組みが作り出され、諸地域間の交流が限られた中で行われた古代・中世・近世。互いに影響し合いながら変化し、近代へと向かっていく世界の姿を、近現代の様相と関連付けながら学んでいきます。

年間学習計画

学期	学習内容		学習活動	
1	世界史へのまなざし1 世界史へのまなざし2	<input type="checkbox"/> 人類の誕生と進化の過程の概要を理解する。 <input type="checkbox"/> 砂糖とコーヒーを事例として、自らと世界史のつながりについて考察する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> </div>	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間審査 期末審査	
	第I部 諸地域の歴史的 特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明 の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその 周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 第2章 中央ユーラシアと 東アジア世界 1 中央ユーラシア 草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成 第3章 南アジア世界と 東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの 統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー 教の定着 3 東南アジア世界の形成と 展開	<input type="checkbox"/> 文明誕生の基礎について理解する。 <input type="checkbox"/> オリエントの風土と、その文明の歴史的 特質の関係を多面的・多角的に考察し 表現する。 <input type="checkbox"/> 南アジアの古代文明について多面的・多 角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 東アジア各地の風土が、多様な生業と文 化を生み出し、各地で人々の移動や交 流がおこなわれたことを理解する。 <input type="checkbox"/> 南北に長いアメリカ大陸各地で、様 々な先住民文化が栄えたことを理解す る。 <input type="checkbox"/> 中央ユーラシアの人々が営んでいた生 活と風土について理解し、騎馬遊牧民 が強大な国家を築くことができた理由 を多面的・多角的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 秦・漢といった統一国家の支配体制 について理解する。 <input type="checkbox"/> 遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱 との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 隋・唐の社会や制度、支配体制につ いて、それまでの時代や他の地域との 違いや、時期ごとの変化をふまえたう えで理解する。 <input type="checkbox"/> 南アジアで生まれた宗教が、南アジ アの社会や周辺諸地域へ与えた影響を 理解する。 <input type="checkbox"/> グプタ朝における宗教や文化の展開 を理解し、ヒンドゥー教が南アジア社会 に根付いていった背景を多面的・多角 的に考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 東南アジアの風土や地英をふまえたう えで、どのように国家が形成されたのか を理解し、南アジアや中国との関係お よびその変遷を多面的・多角的に考察 し表現している。		<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>
2	第4章 西アジアと地中海周辺 の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン 文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 第5章 イスラーム教の成立と ヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とイスラーム 政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成 第II部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への 伝播 2 西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容 と展開 1 西ヨーロッパの封建社会と その展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第8章 東アジア世界の展開と モンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国 第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の変容	<input type="checkbox"/> イラン諸国家がそれぞれどのように興 亡したのかを理解し、世界の諸地域に 与えた影響を多面的・多角的に考察し 表現する。 <input type="checkbox"/> 古代ギリシアの社会や文化の特徴を 理解する。 <input type="checkbox"/> ローマがどのような経緯で都市国家 から帝国にいたったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> 当時の地中海世界の状況をふまえたう えで、キリスト教が急速に広がった理 由を多面的・多角的に考察し表現す る。 <input type="checkbox"/> イスラーム教がどのように成立し短 期間で勢力を拡大していったのかを理 解し、西アジアや北アフリカの社会に 与えた影響を多面的・多角的に考察し 表現する。 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれ ぞれどのようにして独自の世界を形づ くっていったのかを理解する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/> </div> <input type="checkbox"/> 中央アジア・南アジア・東南アジ ア・アフリカの各地でどのようにイス ラーム化が進んだのかを理解する。 <input type="checkbox"/> トルコ人の進出が西アジアにもたら した変化について考察し表現する。 <input type="checkbox"/> 中世の西ヨーロッパにおけるローマ =カトリック教会や十字軍遠征、商業 の発達について理解する。 <input type="checkbox"/> ビザンツ帝国の衰退の過程と、その 周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動 向について理解する。 <input type="checkbox"/> 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過 程および中央集権国家に向けた西ヨー ロッパの動きを理解する。 <input type="checkbox"/> 中世の西ヨーロッパの文化について 、キリスト教の影響が大きかったこと を理解する。 <input type="checkbox"/> 10～12世紀の東アジアの情勢につ いて、東アジア内の交流と再編を中心 に理解する。 <input type="checkbox"/> モンゴル帝国がどのように成立し、 解体したのか、そして帝国の支配は社 会にどのような影響を与えたのかを 理解する。 <input type="checkbox"/> 「世界の一体化」が始まった時期 のアジアにおいて、どのような動きが あったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> ヨーロッパの海洋進出について、 その動機や背景、経緯を理解する。	<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間審査 期末審査
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域 第11章 近世ヨーロッパ世界の 動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの 台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	<input type="checkbox"/> オスマン帝国とサファヴィー朝がど のように支配を確立し、統治をおこな ったのかを理解する。 <input type="checkbox"/> ムガル帝国の支配の経緯と宗教的 施策について理解する。 <input type="checkbox"/> 清朝の基礎が築かれた経緯や清代 の政治と社会の特徴および周辺諸国 との関係について理解する。 <div style="text-align: center;"> <input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/> </div> <input type="checkbox"/> ルネサンスの特徴や広がり、後世 に与えた影響を理解し、多面的・多 角的に考察し表現している。 <input type="checkbox"/> 新しい宗派の成立過程やその後の ヨーロッパの宗教分布を理解する。 <input type="checkbox"/> 主権国家体制の成立について、それ までのヨーロッパの状況と比較した 上で理解する。 <input type="checkbox"/> オランダ・イギリス・フランスが それぞれ持った有利な点や課題を理 解する。 <input type="checkbox"/> 北欧・東欧の各国関係の推移や、 それぞれにおける改革の内容を理解し ている。 <input type="checkbox"/> 科学革命と呼ばれる一連の変化が どのような背景で起こったのかを理 解し、社会に与えた影響を多面的・ 多角的に考察し表現する。	<input type="button" value="国際"/> <input type="button" value="表現"/> <input type="button" value="環境"/>	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学B	2	3年総合	
教科書	最新 数学B(数研出版)	副教材	教科書傍用 3ROUND 数学B	

1. 学習の目標

数列と統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活とのかかわりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 グループ、個人による発表や課題、授業内におけるグループ活動の取り組み状況等で評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への取り組み状況、授業態度、課題の提出状況、課題の内容、小テスト等を総合的に評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
		到達レベル	レベル1	レベル2	
1 学期	第1章 数列 数列と一般項	<input type="checkbox"/> 数の並びに興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	<input type="checkbox"/> 数列の定義、表記について理解している。	<input type="checkbox"/> 数列の一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	教科書傍用 3 ROUND 数学B 中間考査(50分) 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 期末考査(50分)
	等差数列	<input type="checkbox"/> 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係を考察できる。	<input type="checkbox"/> 等差数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	<input type="checkbox"/> 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	
	等差数列の和	<input type="checkbox"/> 等差数列の和を導く過程を理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	<input type="checkbox"/> 自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。	
	等比数列	<input type="checkbox"/> 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係を考察できる。	<input type="checkbox"/> 等比数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	<input type="checkbox"/> 初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	
	等比数列の和	<input type="checkbox"/> 等比数列の和を導く過程を理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 等比数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	<input type="checkbox"/> 等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。	
	和の記号 Σ	<input type="checkbox"/> 記号 Σ の意味を理解し、 Σ の式を和の形で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 記号 Σ の意味を理解し、数列の和を Σ の式で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 自然数の和や2乗の和の公式を利用して和の計算ができる。 <input type="checkbox"/> 数列の和を Σ で表し、和の計算を簡単に行うことができる。	
	いろいろな数列の和		<input type="checkbox"/> 分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に1つずつ分数が残るパターン)	<input type="checkbox"/> 初項から第n項までの和 S_n が与えられているとき、一般項をもとめることができる。	
	階差数列	<input type="checkbox"/> 数列の規則性の発見に階差数列が利用できることを理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、もとの数列の具体的な項の値が求められる。	<input type="checkbox"/> 階差数列を用いてもとの数列の一般項を導く過程を理解し、一般項を求める。	
	漸化式と一般項	<input type="checkbox"/> 漸化式の意味を理解し、具体的に項の値が求められる。	<input type="checkbox"/> 既習の等差数列・等比数列について、漸化式を用いて考察できる。 <input type="checkbox"/> 既習の階差数列について、漸化式を用いて考察できる。	<input type="checkbox"/> 漸化式が1次式で表される数列について、漸化式を適切に変形することにより、一般項を求めることができる。	
数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることが理解できる。	<input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて等式を証明できる。	<input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて不等式を証明できる。 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。		
2 学期	第2章 統計的な推測				小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間考査(50分) 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 期末考査(50分)
	確率変数と確率分布	<input type="checkbox"/> 試行の確率分布を調べようとする。	<input type="checkbox"/> 多くの根元事象からなる試行の確率変数を考察することができる。	<input type="checkbox"/> 根元事象と確率変数、そして確率への対応を理解している。	
	確率変数の期待値と分散・標準偏差	<input type="checkbox"/> 分散と標準偏差の役割を理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 確率変数の期待値と分散・標準偏差を求めることができる。	<input type="checkbox"/> X^2 の期待値や $E(X^2) - [E(X)]^2$ を用いた分散・標準偏差を求めることができる。	
	二項分布と期待値、分散と標準偏差	<input type="checkbox"/> 反復試行や二項定理について、復習して確認しようとする。	<input type="checkbox"/> 二項分布の期待値・分散・標準偏差を求めることができる。	<input type="checkbox"/> $B(n, p)$ の期待値・分散・標準偏差の公式の一般的な証明を考察することができる。	
	連続型確率変数	<input type="checkbox"/> 連続型確率変数について理解し、その確率を求めようとする。	<input type="checkbox"/> 確率密度関数から確率を求め、その意味を考察することができる。	<input type="checkbox"/>	
	正規分布	<input type="checkbox"/> 正規分布の性質について理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 標準正規分布に従うときの確率を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 正規分布を応用して、身近な問題の確率を求めることができる。	
	二項分布の正規分布による近似	<input type="checkbox"/> 二項分布を正規分布で近似することについて考察しようとする。	<input type="checkbox"/> 二項分布を正規分布による近似で、確率を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 正規分布を応用して、身近な問題の確率を求めることができる。	
	母集団と標本	<input type="checkbox"/> 全数調査と標本調査の特徴を理解しようとする。 <input type="checkbox"/> 無作為抽出や無作為標本について、その仕組みを調べようとする。	<input type="checkbox"/> 全数調査と標本調査の特徴を理解し、適する調査方法を選ぶことができる。	<input type="checkbox"/> 母集団から抽出された大きさが1の無作為標本の確率分布が母集団分布であることを考察できる。	
	標本平均の分散	<input type="checkbox"/> 標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 標本平均を正規分布とみなして、確率を求めることができる。	<input type="checkbox"/>	
母平均・母比率の推定	<input type="checkbox"/> 母平均・母比率の推定について理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 信頼度95%の信頼区間という考え方を利用して、母平均や母比率に対する信頼区間を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 標本平均・標本比率が、母平均・母比率とどのような関係があるかを考察することができる。		
仮説検定	<input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方や用語について理解し、棄却域について考察しようとする。	<input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	<input type="checkbox"/> 信頼度95%の信頼区間と比較して、信頼度99%の信頼区間について考察することができる。		
3 学期	第3章 数学と社会生活	<input type="checkbox"/> 日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解しようとする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	学年末考査(50分)

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学β	2	3年英語人文	
教科書	なし	副教材	数研出版 黄チャート 数学Ⅱ+B 数研出版 黄チャート 数学C	

1. 学習の目標

「統計的な推測」・「平面上の曲線と複素数平面」の内容についての理解を深め、その知識を用いて事象を数学的に考察し、処理する能力を身に付ける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 グループ、個人による発表や課題、授業内におけるグループ活動の取り組み状況等で評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への取り組み状況、授業態度、課題の提出状況、課題の内容、小テスト等を総合的に評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
		到達レベル	レベル1	レベル2	
1	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散	<input type="checkbox"/> 各事象の確率を求め、確率分布を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 確率変数の期待値、分散、標準偏差の求め方を理解している。	<input type="checkbox"/> 確率変数の期待値、分散、標準偏差の定義を理解しており、適切な手法を用いて求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	確率変数の和と積	<input type="checkbox"/> 同時分布について理解し、求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2つの確率変数の和や積について、期待値や分散の求め方を理解し、求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2つの確率変数の独立について理解し、確率変数の和や積の期待値や分散を、適切な求め方で求めることができる。	
	二項分布	<input type="checkbox"/> 二項分布について理解し、 $B(n,p)$ の形で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。		
	正規分布	<input type="checkbox"/> 確率密度関数について理解し、面積を利用して確率を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 正規分布表を用いて、正規分布や標準正規分布に従う確率変数に対し、与えられた確率を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 二項分布に従う確率変数に対し、標準正規分布に近似して確率を求めることができる。	中間考査(50分)
	母集団分布と標本 標本平均の分布	<input type="checkbox"/> 標本調査に関わる語句を理解し、適切に用いることができる。	<input type="checkbox"/> 標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 標本平均や標本比率を近似的に正規分布に従うとみなして確率を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	推定	<input type="checkbox"/> 信頼区間を公式を用いて求めることができる。	<input type="checkbox"/> 信頼区間の意味を理解し、求めることができる。	<input type="checkbox"/> 信頼区間を用いて、母平均や母比率について考察することができる。	
	仮説検定	<input type="checkbox"/> 仮説検定の手順について理解している。	<input type="checkbox"/> 仮説検定を、手順に沿って行うことができる。	<input type="checkbox"/> 片側検定、両側検定を適切に使い分け、様々な有意水準について仮説検定を行うことができる。	期末考査(50分)
2	放物線	<input type="checkbox"/> 放物線の定義や、焦点、準線について理解している。	<input type="checkbox"/> 焦点の座標や準線の方程式から、放物線の方程式を求めることができる。		小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	楕円	<input type="checkbox"/> 楕円の定義や焦点、長軸、短軸などについて理解し、それらの座標や長さを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた条件から、楕円の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 円と楕円の関係性を理解できる。 <input type="checkbox"/> 点の軌跡が楕円になる場合について考察できる。	
	双曲線	<input type="checkbox"/> 双曲線に関わる用語の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 双曲線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や漸近線の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 双曲線の対称軸や対称点について理解するとともに、右辺が-1となる双曲線について考察できる。	
	2次曲線の平行移動	<input type="checkbox"/> 方程式 $F(x, y) = 0$ の書き方の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 平行移動の公式を理解し、与えられた2次曲線の方程式を平行移動した方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた方程式を変形し、方程式が表す図形を表現することができる。	
	2次曲線と直線	<input type="checkbox"/> 2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2次曲線と直線の共有点の個数を、判別式を用いて求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2次曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。	
	2次曲線の性質		<input type="checkbox"/> 離心率と準線の言葉の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 点からの距離と直線からの距離の比が与えられたときに、その点が描く軌跡を求めることができる。	
	曲線の媒介変数表示	<input type="checkbox"/> 媒介変数表示される曲線について、媒介変数を消去することで、曲線の概要を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 曲線の方程式を媒介変数を用いて表現することができる。	<input type="checkbox"/> サイクロイドやアステロイド、カーゴイドなどの曲線を表す媒介変数表示を理解できる。	
	極座標と極方程式	<input type="checkbox"/> 極座標から直交座標に、直交座標から極座標に変換できる。	<input type="checkbox"/> ささまざまな直線や円を極方程式で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 直交座標の方程式を極方程式で、極方程式を直交座標の方程式に変換できる。	中間考査(50分)
	複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数を平面上の点で表す考え方を理解することができる。	<input type="checkbox"/> 共役複素数や和、差、実数倍について理解し、平面上の点として考察することができる。	<input type="checkbox"/> 共役複素数の性質を用いて、複素数に関する証明をすることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	複素数の極形式	<input type="checkbox"/> 極形式や偏角について理解し、複素数を極形式で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 極形式で表された複素数の積や商を公式を用いて求めることができる。	<input type="checkbox"/> 複素数の積を図形と関連付けて、平面上で表現できる。	
ド・モアブルの定理	<input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を理解し、用いることができる。	<input type="checkbox"/> 1のn乗根を求めることができる。	<input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を用いて、複素数を含んだ方程式を解くことができる。		
複素数と図形	<input type="checkbox"/> 公式を用いて、線分の内分点、外分点や、半直線のなす角を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数平面上の円や直線を、複素数の方程式で表すことができる。	<input type="checkbox"/> 複素数の方程式で表された図形がどのような図形かを述べることができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた複素数の条件を図形と関連付け、条件から解を考察することができる。	期末考査(50分)	
3	2学期期末テスト終了以降は総復習・入試問題演習を行い、その範囲から学年末考査を行う。				

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	総合数学演習	4	3年英語人文コース	
教科書	自校編集教材	副教材	なし	

1. 学習の目標

数学Ⅰ・数学Aで学習した数学の定義・定理・公式をすべて再確認し、問題に応じてそれらを活用し、解決する力を身につける。また、入試頻出問題や過去問を繰り返し解き、入学試験に対応できるような総合的な力を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身につける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題の類似問題を何度も解き、同様の問題が出題された場合は必ず解けるようにする。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいたから勉強するといった形にならないようにする。
 ※第3学年であることを自覚し、進路実現を目指して前向きに取り組みなさい。受験は一人では勝ち抜けません。仲間と協力し合い、勉強を励むことができる良い雰囲気をつくりなさい。【後向きな発言・行動厳禁】

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への取り組み状況、授業態度、課題の提出状況、課題の内容、小テスト等を総合的に評価します。

4. 担当者からのメッセージ

社会では、誠実でかつ真面目にコツコツと努力できる人材が求められています。上記の欄に記述したことを意識して励めば、すぐに目に見える結果は現れないかもしれませんが、必ずプラスに働きます。その努力を怠らずに続けることが進路実現につながり、最終的には社会が求める人材となることにつながるのです。

令和7年度北稜シラバス

松井

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	数と式(数学Ⅰ)	四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	総合数学演習 課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	[] []
	集合と命題(数学Ⅰ)	集合と命題に関する考え方を理解し、それを事象の考察に活用することができる。	グループ学習など	[]
	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	中間考査 課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	[] [] []
2	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	[] []
	図形と計量(数学Ⅰ)	三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。	グループ学習など 中間考査	[]
	データの分析(数学Ⅰ)	さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	[] [] []
	場合の数と確率(数学A)	・さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 ・確率の性質を理解し、さまざまな確率を求めることができる。	期末考査	[]
3	図形の性質(数学A)	図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	[] [] []
			学年末考査	[]

到達レベル	1	2	3	4	5
知識・技能	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式が分からない。	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式を知っている。	単純な問題を解くために必要な考え方や公式を適切に使うことができる。	複雑な問題を解くために必要な複数の分野の考え方や公式が分かる。	複雑な問題を解くために、複数の分野の考え方を整理して、公式等を適切に使うことができる。
思考・判断・表現	問題を解くための手順を考えられない。	問題を解くための手順を考えられる。	問題を解くための正しい手順を考えられる。	問題を解くための手順に従い、解答が導ける。	問題の解答を、手順に従い適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組めない。	与えられた課題に一通り取り組める。	与えられた課題に繰り返し取り組み、理解しようとしている。	与えられた課題に関連する問題に自主的に取り組み、理解を深めようとしている。	多種多様な問題に自主的に取り組み、総合的な問題解決力を養おうとしている。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅲ	4	3年環境理数コース	
教科書	高等学校 数学Ⅲ(数研出版)	副教材	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅲ 数研出版 黄チャート 数学Ⅲ	

1. 学習の目標

いろいろな関数、極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する姿勢を身に付けます。
 数学ⅡBCまでで学習した基本事項をもとにして、数学Ⅲではそれらを組み合わせることにより「複雑な事象」、「複雑な関数」を考察できるようになります。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習】数学Ⅲは授業の進度がとても早くなります。教科書の予習(最低限例題を読んでおく、できれば問題を解いておく)をしてきてください。
 【復習】問題集を解かなければ定着しないのは数Ⅲも同じ。A問題だけでもきちんと解こう。
 【入試について】理系数学は「数学Ⅲからの出題」がとても多いので、日々の学習が入試直結です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 ・週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

数学Ⅲの一通りの学習を二学期半ばには終え、それ以降は「総復習」、「入試演習」を行っていく予定です。数学Ⅲの授業進度はとても速くなりますので、授業に集中してください。極力休まないでください。遅れを取り返すのが大変になります。

2 学期 中間 考查	【積分法とその応用】 1 不定積分とその基本性質	・ x の α 乗の不定積分を求めることができる。 ・三角関数・指数関数の不定積分の公式を覚えてい	関数の定数倍と和・差の不定積分の性質を理解している。	左記の性質を利用し、分数関数、三角関数、指数関数の不定積分を求めることができる。	被積分関数がやや複雑で、被積分関数に式変形が伴う積分計算ができる。	微分方程式が解ける。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など	
	2 置換積分法と部分積分法	簡単な置換をする置換積分の計算ができる。	被積分関数が明確な積の形になっている場合に部分積分の計算ができる。	対数関数の積分を部分積分を用いて求めることができる。	置き換えをせずに置換積分を行うことができる。	被積分関数が複雑で、被積分関数に式変形が伴う場合の置換積分や部分積分を行うことができる。		
	3 いろいろな関数の不定積分	分数関数において、分子の次数下げを行って積分計算することができる。	部分分数分解をしてから積分計算をすることができる。	三角関数の半角の公式や積和変換をしてから積分の計算ができる。	複雑な部分分数分解や三角関数の特殊な置換をとまなう積分計算ができる。	部分積分をして同じ形が繰り返す関数の不定積分を求めることができる。		
	4 定積分とその基本性質	被積分関数が単項式(関数一種類)の定積分を求めることができる。	数Ⅱで学んだ定積分の性質を理解し、数Ⅲでも活用できることが理解できる。	定積分の性質を利用して簡単に値を求める工夫ができる。	絶対値がついた関数の定積分を求めることができる。	定積分を最大・最小にする係数を求めることができる。		
	5 置換積分と部分積分	簡単な置換をする置換積分の計算ができる。	被積分関数が明確な積の形になっている場合に部分積分の計算ができる。	・三角関数で置換する置換積分ができる。 ・偶関数と奇関数の性質を利用して定積分の値を求めることができる。	部分積分をして同じ形が繰り返す関数の定積分を求めることができる。	被積分関数が複雑な形でも、置換積分や部分積分の計算をすることができる。		
中間考查(80分)								
2 学期 期末 考查	6 定積分のいろいろな問題	数Ⅱで学んだ微積分学の基本定理が数Ⅲでも活用できることを理解し、定積分を微分することができる。	定積分を含む関数に対して微積分学の基本定理を利用して関数を求めることができる。	区分求積法の考えを理解し、 Σ の極限値を定積分に置き換え、値を求めることができる。	関数を評価して、定積分と不等式の関係を利用して積分できない定積分の近似値を求めることができる。	シュワルツの不等式を利用して不等式の証明ができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など	
	7 面積	数Ⅱで学んだ面積の求め方が数Ⅲでも活用できることを理解し、被積分関数が単純な場合の面積を求めることができる。	グラフの交点を求め、囲まれた部分の面積を求めることができる。	y 軸とで囲まれた部分の面積を求めることができる。	2次曲線でできる部分の面積を置換積分を利用して求めることができる。	接戦と囲まれた部分の面積や媒介変数表示された関数の面積など、色々な面積を求めることができる。		
	8 体積	断面積を利用して、体積を求めることができる。	x 軸周りの回転体の体積を求めることができる。	y 軸周りの回転体の体積を求めることができる。	円環体など差を考えたり和を考えたりして色々な体積を求めることができる。	直線 $y=x$ の周りに1回転してできる回転体の体積を求めることができる。		
	9,10 道のり、曲線の長さ	速度と初期条件が与えられたときに、 t 秒後の位置を積分を利用して求めることができる。	動点Pの移動した道のりを速さ(速度の絶対値)を積分して求めることができる。	座標平面上を運動する点の道のりを求めることができる。また、この考え方を利用して媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。	陽関数表示された曲線の長さを求めることができる。	媒介変数表示された関数の導関数、グラフの概形、面積、曲線の長さを体系的に理解している。		
期末考查(80分)								

11月～1月は総復習・入試問題演習を行い、その範囲から考查を行う。

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	7個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学B+C	1+1	3年環境理数コース	
教科書	高等学校 数学B(数研出版) 高等学校 数学C(数研出版)	副教材	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B・数学C 数研出版 黄チャート 数学Ⅱ+B・数学C	

1. 学習の目標

複素数平面、2次曲線について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する姿勢を身に付けます。
2年生次までで学習した基本事項をもとにして、それらを組み合わせることにより「複雑な事象」、「複雑な関数」を考察できるようになります。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習】数学B+Cは授業の進度がとても早くなります。教科書の予習(最低限例題を読んでおく、できれば問題を解いておく)をしてきてください。

【復習】問題集を解かなければ定着しないのは数B+Cも同じ。A問題だけでもきちんと解こう。

【入試について】共通テストや公募推薦などでも必要となってくる科目ですから、日々の学習が入試直結です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

2年生に引き続いて数学BCの内容に取り組みますが、1学期には内容を学習し終わり、それ以降は「総復習」、「入試演習」を行う予定です。進度が速いですから、休んでしまうと授業の遅れを取り返すのは大変です。極力休まず、積極的に授業及び自学自習に励んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標					学習活動
		到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
1 学期 中間 考查	【複素数平面】 1 複素数平面	複素数を複素平面上に点で表すことができる。共役な複素数について理解している。	複素数の絶対値の意味を理解し、それを求めることができる。複素数の和・差・実数倍と平面ベクトルの類似性に気がつくとともに複素平面上で図示することができる。	複素数の実数倍と平面ベクトルの類似性に気がつくとともに3点一直線上にあるための条件を表すことができる。共役複素数の性質を理解している。	共役複素数の性質を利用して、実数か純虚数かの判定ができる。共役複素数の性質を利用して、複素数の絶対値を求めることができる。		小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など 中間考查(80分)
	2 複素数の極形式	複素数の極形式(絶対値、偏角、弧度法など)について理解している。	複素数を極形式で表すことができる。複素数の積と商の絶対値と偏角の関係がわかる。複素数の積が、複素平面上でどのような意味をなしているかを理解している。	複素平面上の点を原点を中心に任意の値だけ回転拡大した点を表す複素数を求めることができる。	複素平面上にある3点を頂点とする三角形の形状が、条件を満たすように複素数を決定することができる。極形式を利用して $\pi/12$ を求めることができる。		
	3 ド・モアブルの定理	ド・モアブルの定理を理解し、複素数の極形式のn乗を計算することができる。	ド・モアブルの定理を利用して、複素数のn乗の計算ができる。	ド・モアブルの定理を利用し、1のn乗根を求めることができる。また、それらを複素平面上に図示することができる。	ド・モアブルの定理を利用し、複素数のn乗根を求めることができる。また、それらを複素平面上に図示することができる。		
	4 複素数と図形	複素平面上における線分の内分点・外分点となる点を表す複素数を求めることができる。また三角形の重心となる点を表す複素数を求めることができる。	円や垂直二等分線を表す方程式を理解している。また簡単な方程式からどのような図形を表すかがわかる。複素平面上の原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素平面上の異なる3点に対して任意の2本の半直線のなす角を求めることができる。	複雑な方程式であっても、目標となる式の形に変形し、その方程式が満たす点が描く図形がどのようなものかを調べることができる。複素平面上の3点が一直線上にあるための条件、ある点をとる2直線が垂直である条件を複素数を用いた式で表せる。	複素平面上を動く点に対して、ある条件をみたす他の点を表す図形を調べることができる。複素平面上の3点を表す複素数を用いた条件式から、実際その3点を結ぶ三角形がどのような形状であるかを調べることができる。		
1 学期 期末 考查	【式と曲線】 1 放物線	放物線に関わる用語の意味を理解している。	放物線を表す点の軌跡を理解し、放物線を描くことができる。	放物線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や準線の方程式を求めることができる。与えられた焦点の座標や準線の方程式から放物線の方程式を求めることができる。	放物線の軸、頂点、対称軸について理解するとともに、y軸が軸となる放物線について考察できる。		小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など 期末考查(80分)
	2 楕円	楕円に関わる用語の意味を理解している。	楕円を表す点の軌跡を理解し、楕円を描くことができる。	楕円の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や長軸、短軸の長さを求めることができる。与えられた2つの焦点と焦点からの距離の和から楕円の方程式を求めることができる。	楕円の長軸と短軸の長さの関係性、対称軸や対称点について理解するとともに、y軸に長軸がある楕円について考察できる。	円と楕円の関係性を理解できる。点の軌跡が楕円になる場合について考察できる。	
	3 双曲線	双曲線に関わる用語の意味を理解している。	双曲線を表す点の軌跡を理解し、双曲線を描くことができる。	双曲線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や漸近線の方程式を求めることができる。与えられた2つの焦点と焦点からの距離の差から双曲線の方程式を求めることができる。	双曲線の対称軸や対称点について理解するとともに、右辺が-1となる双曲線について考察できる。	直角双曲線について考察できる。	
	4 2次曲線の平行移動	平行移動の図形的意味を理解している。	方程式 $F(x, y) = 0$ の書き方の意味を理解している。	平行移動の公式を理解し、与えられた2次曲線の方程式を平行移動した方程式を求めることができる。	与えられた方程式を変形し、方程式が表す図形を表現することができる。		
	5 2次曲線と直線	2次曲線と直線の位置関係を理解している。接点や接する、接線といった用語の意味を理解している。	2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。	2次曲線と直線の共有点の個数を、判別式を用いて求めることができる。	2次曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。	2次曲線の接線の方程式を、判別式を用いて理解することができ、公式を用いて接線の方程式を求めることができる。	
	6 2次曲線の性質			点からの距離と直線からの距離の比が与えられたときに、その点が描く軌跡を求めることができる。	離心率と準線の言葉の意味を理解している。	離心率と準線の方程式を求めることができる。	
	7 曲線の媒介変数表示	媒介変数表示、パラメータという言葉の意味を理解している。	媒介変数表示される曲線について、媒介変数を消去することで、曲線の概要を求めることができる。	曲線の方程式を媒介変数を用いて表現することができる。	サイクロイドやアステロイド、カージョイドなどの曲線を表す媒介変数表示を理解できる。	分数式を用いて、円や双曲線を媒介変数表示することができる。	
	8 極座標と極方程式	極、始線、偏角、極座標、直交座標という言葉の意味を理解している。	極座標から直交座標に、直交座標から極座標に変換できる。	さまざまな直線や円を極方程式で表すことができる。	直交座標の方程式を極方程式で、極方程式を直交座標の方程式に変換できる。	離心率を用いて、2次曲線を極方程式で表すことができる。	
	9 コンピュータの利用			コンピュータを用いて、媒介変数表示や極方程式で表される曲線を描くことができる。			

7月～1月は総復習・入試問題演習を行い、その範囲から考查を行う。

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	7個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	総合数学演習	4	3年・環境理数コース	
教科書	なし	副教材	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B・数学C 数研出版 黄チャート 数学Ⅱ+B・数学C	

1. 学習の目標

1・2年次に学習した数学の定義・定理・公式等を再確認し、問題に応じてそれらを活用し、解決する力を身につける。また、入試頻出問題や過去問を繰り返し解き、入学試験に対応できる総合的な数学の力を育てる。高校数学の総復習として、全範囲を網羅的に学習します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業前の予習、授業後の復習は必ず行ってください。予習を行うことによって、授業中の板書時間を短くし、自ら考える時間を多く取れるよう心掛けてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト ・課題(ノート)等 ・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・定期考査、小テスト ・振り返りシート ・課題(ノート)等 ・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容

4. 担当者からのメッセージ

入試に対応できる力を身につけるための学習ではありますが、それにとどまらず、「論理的な考え方ができ、筋道をたてて説明できる」社会人として必要な能力も身につけていきましょう。そのためには、単に答えが出せたで終わることなく、考え方が正しいか、使う定理や公式が正しいか、そして計算が間違っていないかを常にチェックするようにしましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動	自己評価
1	数と式(数学Ⅰ)	□四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	中間考査(80分)	[]
	2次関数(数学Ⅰ)	□2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。		[]
	図形と計量(数学Ⅰ)	□三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。		[]
	データの分析(数学Ⅰ)	□さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。		[]
	場合の数と確率(数学A)	□さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 □確率の性質を理解し、さまざまな確率を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出	[] []
	図形の性質(数学A)	□図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。	課題発表 表現	[]
	整数の性質(数学A)	□整数の性質を理解し、計算を行うことができる。	グループ学習など 期末考査(80分)	[]
2	式と証明, 複素数と方程式(数学Ⅱ)	□基本的な計算や証明ができる。 □複素数の性質を理解し、計算ができる。 □剰余の定理や因数定理を利用できる。	中間考査(80分)	[]
	図形と方程式(数学Ⅱ)	□図形を方程式を用いて分析することができる。		[]
	三角関数, 指数・対数関数(数学Ⅱ)	□三角関数の性質やグラフ、加法定理を理解し、計算を行うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 表現 グループ学習など 期末考査(80分)	[]
	微分法・積分法(数学Ⅱ)	□微分法を理解し、接線の方程式や関数の増減を求めることができる。 □積分法を理解し、図形の面積を求めることができる。		[]
	ベクトル(数学C)	□ベクトルを用いて平面図形や空間図形を分析することができる。		[]
	数列(数学B)	□さまざまな数列の一般項や和を求めることができる。		[]
3	数と式(数学Ⅰ)	□12学期で復習した内容を基に、課題に取り組み、成果を発揮できる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 表現 グループ学習など 学年末考査(50分)	[]
	2次関数(数学Ⅰ)			
	図形と計量(数学Ⅰ)			
	データの分析(数学Ⅰ)			
	場合の数と確率(数学A)			
	図形の性質(数学A)			
	整数の性質(数学A)			

到達レベル	1	2	3	4	5
知識・技能	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式が分からない。	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式を知っている。	単純な問題を解くために必要な考え方や公式を適切に使うことができる。	複雑な問題を解くために必要な複数の分野の考え方や公式が分かる。	複雑な問題を解くために、複数の分野の考え方を整理して、公式等を適切に使うことができる。
思考・判断・表現	問題を解くための手順を考えられない。	問題を解くための手順を考えられる。	問題を解くための正しい手順を考えられる。	問題を解くための手順に従い、解答が導ける。	問題の解答を、手順に従い適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組めない。	与えられた課題に一通り取り組める。	与えられた課題に繰り返し取り組み、理解しようとしている。	与えられた課題に関連する問題に主体的に取り組み、理解を深めようとしている。	多種多様な問題に自主的に取り組み、総合的な問題解決力を養おうとしている。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学C	2	3年総合探究コース	
教科書	最新 数学C	副教材	教科書傍用 3ROUND 数学C	

1. 学習の目標

ベクトルや複素数平面、平面図形についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活とのかかわりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 グループ、個人による発表や課題、授業内におけるグループ活動の取り組み状況等で評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への取り組み状況、授業態度、課題の提出状況、課題の内容、小テスト等を総合的に評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
		到達レベル	レベル1	レベル2	
1	ベクトル ベクトルの和 ベクトルの差 ベクトルの実数倍	□ベクトルの向き, 大きさ, 相等について理解している。	□ベクトルの加法, 減法, 実数倍の計算の仕組みや, 逆ベクトル, 零ベクトルについて理解している。	□有効線分で表されたベクトルについて, 和, 差, 実数倍を求めることができる。 □数式の演算法則との類似性を理解し計算することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	ベクトルの成分 ベクトルの成分と演算	□ベクトルの成分表示の仕方を理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算の仕方を理解している。 □座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。	
	ベクトルの内積 内積の性質	□内積の定義を理解している。 □内積は実数であることを理解している。	□ベクトルの大きさとなす角から, 内積を求めることができる。 □成分表示されたベクトルについて, 内積を求めることができる。	□ベクトルのなす角を, 内積を利用して求めることができる。 □ベクトルの垂直条件を理解し, 計算に利用できる。	
	位置ベクトル	□位置ベクトルの考え方を理解している。	□線分の内分点, 外分点や三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。	□線分の内分点, 外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。	
	ベクトルと図形		□3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。	□線分上の点を, 線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。	
	ベクトル方程式		□直線のベクトル方程式を理解している。	□直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。	中間考査(50分)
	空間の座標 空間ベクトル	□空間における座標軸のとり方を理解し, 点の座標が求められる。	□空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえ, 和, 差, 実数倍の計算方法を理解している。	□空間ベクトルの和, 差, 実数倍を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表
	空間ベクトルの成分と演算	□空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。	□座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。	
	空間ベクトルの内積	□ベクトルの内積を, 平面から空間へ拡張して考察できる。	□ベクトルの大きさとなす角から, 内積を求めることができる。 □成分表示されたベクトルについて, 内積を求めることができる。	□ベクトルのなす角を, 内積を利用して求めることができる。 □ベクトルの垂直条件を理解し, 計算に利用できる。	
	位置ベクトル	□ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解している。	□空間における図形を, 1つの頂点に関する位置ベクトルで考察し, 内分点や外分点の位置ベクトルを求めることができる。	□空間において3点が一直線上にあるための条件を理解し, ベクトルで表現して利用できる。	
空間図形への応用		□座標空間における線分の長さや内分点・外分点の座標が求められる。	□空間図形の考え方を利用して, 空間図形について考察できる。		
2	複素数平面 複素数の和と積	□複素数を平面上の点で表す考え方を理解することができる。	□複素数の絶対値が計算でき, その性質を理解できる。	□共役複素数や和, 差, 実数倍について理解し, 平面上の点として考察することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	複素数の極形式	□極形式や偏角について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。	□極形式で表された複素数の積や商を公式を用いて求めることができる。	□複素数の積を図形と関連付けて, 平面上で表現できる。	
	ド・モアブルの定理	□ド・モアブルの定理を理解し, 用いることができる。	□複素数の累乗を, ド・モアブルの定理を用いて計算することができる。	□1のn乗根を求めることができる。	
	複素数と図形	□複素数平面上において, 2点間の距離を求めることができる。	□複素数の方程式で表された図形がどのような図形かを述べることができる。	□与えられた複素数の条件を図形と関連付け, 条件から解を考察することができる。	
	放物線	□放物線の定義や, 焦点, 準線について理解している。	□焦点の座標や準線の方程式から, 放物線の方程式を求めることができる。		小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	楕円	□楕円の定義や焦点, 長軸, 短軸などについて理解し, それらの座標や長さを求めることができる。	□与えられた条件から, 楕円の方程式を求めることができる。	□円と楕円の関係性を理解できる。 □点の軌跡が楕円になる場合について考察できる。	
	双曲線	□双曲線に関わる用語の意味を理解している。	□双曲線の方程式の標準形を理解し, 焦点の座標や漸近線の方程式を求めることができる。	□双曲線の対称軸や対称点について理解するとともに, 右辺が-1となる双曲線について考察できる。	
	2次曲線の平行移動	□方程式 $F(x, y) = 0$ の書き方の意味を理解している。	□平行移動の公式を理解し, 与えられた2次曲線の方程式を平行移動した方程式を求めることができる。	□与えられた方程式を変形し, 方程式が表す図形を表現することができる。	
	2次曲線と直線	□2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。	□2次曲線と直線の共有点の個数を, 判別式を用いて求めることができる。	□2次曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。	
	3	曲線の媒介変数表示	□媒介変数表示される曲線について, 媒介変数を消去することで, 曲線の概要を求めることができる。	□曲線の方程式を媒介変数を用いて表現することができる。	□サイクロイドやアステロイド, カージオイドなどの曲線を表す媒介変数表示を理解できる。
極座標と極方程式		□極座標から直交座標に, 直交座標から極座標に変換できる。	□さまざまな直線や円を極方程式で表すことができる。	□直交座標の方程式を極方程式で, 極方程式を直交座標の方程式に変換できる。	

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて, テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて, 一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて, 一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで, 反復練習をしたり, 理解するための工夫をしている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し, 学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し, 学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 他の人の意見をまとめたりして, グループで思考の仮定を共有することができる。

学年末考査(50分)

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学演習	2	3年・総合探究コース	
教科書	授業時に配布するプリント等	副教材		

1. 学習の目標

数学Ⅰ・数学Aの基本事項の復習により基礎学力を定着し、それを用いて応用問題に取り組む思考力を身に付ける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

1年次に学習した数学Ⅰ・Aの内容で、基本的な公式を用いた演習をあらかじめ解いておくといいです。また、授業で扱った内容は、復習を欠かさないようにしましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 グループ、個人による発表や課題、授業内におけるグループ活動の取り組み状況等で評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への取り組み状況、授業態度、課題の提出状況、課題の内容、小テスト等を総合的に評価します。

4. 担当者からのメッセージ

入試に対応できる力を身に着けるための学習ではありますが、それにとどまらず、「論理的な考え方ができ、筋道をたてて説明できる」社会人として必要な能力も身に着けていきましょう。そのためには、単に答えが出せたで終わることなく、考え方が正しいか、使う定理や公式が正しいか、そして計算が間違っていないかを常にチェックするようにしましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価	
1	数と式(数学Ⅰ)	四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など	[] []	
	集合と命題(数学Ⅰ)	集合と命題に関する考え方を理解し、それを事象の考察に活用することができる。	表現	[]	
	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	中間考査 課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など	[] []	
			期末考査	表現	[]
2	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など	[] []	
	図形と計量(数学Ⅰ)	三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。	表現	[]	
	データの分析(数学Ⅰ)	さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。	中間考査 課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など	[] []	
	場合の数と確率(数学A)	・さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 ・確率の性質を理解し、さまざまな確率を求めることができる。	表現	[]	
			期末考査	[]	
3	図形の性質(数学A)	図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など	[] []	
	数学と人間の活動(数学A)	整数に関わる公式や性質を理解し、整数に関わる事象に活用することができる。	表現	[]	
			学年末考査	[]	

到達レベル	1	2	3	4	5
知識・技能	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式が分からない。	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式を知っている。	単純な問題を解くために必要な考え方や公式を適切に使うことができる。	複雑な問題を解くために必要な複数の分野の考え方や公式が分かる。	複雑な問題を解くために、複数の分野の考え方を整理して、公式等を適切に使うことができる。
思考・判断・表現	問題を解くための手順を考えられない。	問題を解くための手順を考えられる。	問題を解くための正しい手順を考えられる。	問題を解くための手順に従い、解答が導ける。	問題の解答を、手順に従い適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組めない。	与えられた課題に一通り取り組める。	与えられた課題に繰り返し取り組み、理解しようとしている。	与えられた課題に関連する問題に自主的に取り組み、理解を深めようとしている。	多種多様な問題に自主的に取り組み、総合的な問題解決力を養おうとしている。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	地学基礎	2	3年総合探究コース	
教科書	『高等学校 地学基礎』(啓林館)	副教材	『新訂版 地学基礎の基本マスター』(啓林館)	

1. 学習の目標

地球や宇宙の空間的・時間的スケールを正しく認識できるようになること。自然界では法則性が成り立っていることを理解できるようになること。科学的な手法が自然界を理解する際に有効であることを知り、探求の手段を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業ではノートを作成し、内容の理解に努めてください。ただ黒板を写すだけでは不十分です。後で見返したときに授業の内容を思い出せるよう、メモを書き加えてノートを作りましょう。授業終了後、ノートや教科書を使って確実な復習を心がけてください。理解できないところは積極的に質問し、理解を深めましょう。また、考査前には問題集を使って自分自身の理解を確認しましょう。問題集を1回解くだけでなく、理解できるまで何度も解き直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめとする)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていますか。	定期考査、実習レポート内容等 実習を正しく行うことができているか。ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、実習レポート内容(考察)等 質問への回答(授業中の課題にしっかり答えられているか) 実習レポート・ノート等で独自の工夫と努力が認められるか。
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。学習が不十分な場合、自ら進んで学習に取り組んでいるか。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・実習レポート等の提出状況 ノート(メモをとりながらノートを作れているか・黒板を写しただけではなく、自分なりに調べてまとめたもの配布したプリントが整理され、貼り付けられているか)

4. 担当者からのメッセージ

地学は地震、火山、天気など日常と深く関わりのある分野です。興味・関心を持って学習し、日常生活で使えるように、生きた知識を身につけましょう。また地学は様々な分野(化学、生物、物理)と深く関わりのある学問です。これまでに習ったことと関連させて学習を進めましょう。

年間学習計画

学期	学習項目	到達目標（チェックポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	第1部 固体地球とその変動			
	第1章 地球			
	第1節 地球の概観	<input type="checkbox"/> 地球の形、大きさについて理解できたか		【 】
	第2節 地球の内部構造	<input type="checkbox"/> 地震波を用いて地球内部の層状構造を探る手法を理解できたか	中間考査 プリント・ノート提出	【 】
	第2章 活動する地球			
	第1節 プレートテクトニクスと地球の活動	<input type="checkbox"/> 地球表面の構造と運動についてプレートテクトニクスを用いて説明できるか		【 】
	第2節 地震	<input type="checkbox"/> 地震の基本的性質について学べたか <input type="checkbox"/> 日本列島の地震分布と地震災害について学べたか <input type="checkbox"/> 活断層について学べたか		【 】 【 】 【 】
	第3節 火山活動と火成岩の形成	<input type="checkbox"/> 噴火のしくみと火山噴出物について説明できるか <input type="checkbox"/> 日本列島の火山分布とその原因と災害について理解できたか <input type="checkbox"/> 代表的な火成岩の名称と特徴を説明できるか	期末考査 プリント・ノート提出	【 】 【 】
2	第2部 大気と海洋			
	第1章 大気構造			
	第1節 大気圏	<input type="checkbox"/> 大気の層構造とその特徴を理解できたか		【 】
	第2節 水と気象	<input type="checkbox"/> 空気の性質と気象現象（雲）について説明できるか		【 】
	第2章 太陽放射と大気・海水の運動			
	第1節 地球のエネルギー収支	<input type="checkbox"/> 地球のエネルギーバランスについて理解し、簡単なエネルギー収支の計算ができるか		【 】
	第2節 大気の大循環	<input type="checkbox"/> 地球規模の大気の運動について理解できたか	中間考査 プリント・ノート提出	【 】
	第3節 海水の循環	<input type="checkbox"/> 地球規模の海水の運動について理解できたか		【 】
3	第3部 移り変わる地球			
	第1章 地球の誕生			
	第1節 宇宙の誕生	<input type="checkbox"/> 銀河系の構造、宇宙の構造について理解できたか		【 】
	第2節 太陽系の誕生	<input type="checkbox"/> 太陽系のでき方について説明できるか		【 】
	第2章 地球と生命の進化			
	第1節 先カンブリア時代	<input type="checkbox"/> 先カンブリア時代の歴史について主なできごとを把握できたか		【 】
	第2節 顕生代	<input type="checkbox"/> 顕生代の歴史について主なできごとを把握できたか		【 】
	第3章 地球史の読み方			
第1節 地層からわかること	<input type="checkbox"/> 地球の歴史と生命の進化を関連付けて理解できたか		【 】	
第1節 地層の形成	<input type="checkbox"/> 地表面での様々なはたらきについて説明できるか <input type="checkbox"/> 堆積物の種類と続成作用・堆積岩について学べたか		【 】 【 】	
第2節 地層の読み方	<input type="checkbox"/> 地層累重の法則・堆積構造・地層の対比などにより地球の歴史を編む方法を理解できたか	期末考査 プリント・ノート提出	【 】	

※ なお、第4部自然との共生については第1部～第3部の内容に含めて取り扱う

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	ステップアップ生物	2	3年1・2組選択者	
教科書	数研出版 生物	副教材	問題集 リードLightノート生物	

1. 学習の目標

生物基礎で学習した内容をふまえて、生物や生命現象にさらに関心を高め、理解を深める。生物学上の概念や原理・法則を深く理解し、自分自身や周囲の自然環境、日常生活で起こる現象を科学的に観察・考察できるように学ぶ。また、実習や演習の時間を通して生命現象を身近に体験し、それを他に伝えられる能力を高めていく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

毎回の授業を大切に、授業内で疑問に思ったことがあれば、自分で調べたり、友人や教員に聞いたりと解決につなげましょう。基礎力は、考査直前だけではなく、毎回の授業後に問題演習に取り組むことで身に付きます。また予習、復習として教科書を音読することも効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	定期考査、レポート内容等 観察・実験の技能・表現
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、レポート内容(考察)等
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

「生物」は決して暗記科目ではありません。細胞と細胞のつながり、体内と体外、同じ種類の生きもの、違う種類の生きもの、地球規模の環境など、大小さまざまな関係によってつくられている大きな世界の物語を理解する学問です。その一つ一つを一緒に学んでいきましょう。

生物年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	
1	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	・植物の環境応答が、植物の生き残り戦略であることを理解している。 ・植物が環境からの刺激を受容し、細胞間でその情報を伝達して反応していることを理解している。 ・環境の変化に対する植物の反応について、屈性と傾性の違いを理解している。 ・植物の反応は環境の変化を感知して情報伝達が行なわれて起こることを理解している。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #FFC107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>
2	第4章 遺伝情報の発現 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節	・DNAの構造および複製の仕組みについて理解する。 ・遺伝情報の転写・スプライシング・翻訳等のタンパク質合成についてその仕組みを理解する。 ・遺伝情報の転写の調節について概要を理解する。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #F44336; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">国</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #FFC107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>
	第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	・受容器で受け取られた刺激が、神経系を介し、効果器へ至る経路を理解する。 ・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とその働きを理解する。 ・中枢神経系の構造や働き、反射の経路を理解する。 ・主に筋肉の構造と収縮の仕組みを理解する。 ・生得的行動や学習等、色々な行動について理解する。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #FFC107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>
3	4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	・発生の過程で、細胞が分化するしくみを理解する。 ・バイオテクノロジーの原理と有用性について知る。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #F44336; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">国</div> <div style="background-color: #FFC107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	化学	3	3年環境理数コース	
教科書	化学 改訂版(啓林館)	副教材	実践アクセス総合化学(浜島書店)	

1. 学習の目標

・物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通して、興味・関心を探究心にまで高め、主体的に解決しようとする意欲を高めることができる。
 ・自分自身で課題を見つけ、主体的・意欲的に観察、実験などに取り組むことができる。
 ・化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解することができる。
 ・物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、自然界の事物・現象を総合的に考察する能力を生かすことができる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

まずは問題集を1冊仕上げることを心がけてください。一通りやり通してみると見えてくるものがあるはずです。日々の授業、及び自宅での学習が定着への第一歩です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業への出席状況、受講態度 授業に集中し、意欲的に取り組んでいるか。 自分で工夫してノートへの記入を行っているか。 ・ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。 提出期限を守って、提出されているか。
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 答えを導き出す過程が記されているか。 ・レポート内容 結果のみでなく、考察がされているか。
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・観察・実験の技能・表現、発表等 実験器具等を正しく操作しているか。 予想や考察内容が具体的に表現されているか。
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト、レポート内容等 学習した内容が正確に理解されているか。

4. 担当者からのメッセージ

昨年度からの引き継ぎですが、より高度な内容となります。また3単位で進度も速くなり、特に「無機物質」、「有機化合物」は、覚える内容も多くなります。したがって復習がより重要となります。考査直前だけでなく、日常的に授業ノート、プリントの見直し、問題演習をしてください。大学受験に対応した問題演習も行う予定です。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	第4部 有機化合物			
	第4章 芳香族化合物		廃液の処理方法について 環	[]
	第1節 芳香族炭化水素	・芳香族炭化水素の種類と命名法, 性質を理解する。とくに特有の名前が付けられた反応を理解する。		[]
	第2節 酸素を含む芳香族化合物	・フェノール類の種類と命名法, 性質を理解する。 ・芳香族カルボン酸の種類と命名法, 性質を理解する。		[]
	第3節 窒素を含む芳香族化合物	・芳香族アミンの種類と命名法, 性質, ジアゾ化, ジアゾカップリングなどを理解する。		[]
	第4節 有機化合物の分離	・有機化合物の官能基の性質を利用して, その混合物を分離することができることを学ぶ。	中間考査 表	[]
	第5部 高分子化合物			
	第1章 高分子化合物の特徴			
	第1節 高分子化合物の分類と構成	・高分子化合物全般について, 分類と構造を学び, 高分子化合物が生成する反応である重合反応を理解する。		[]
	第2章 天然高分子化合物			
第1節 糖類	・単糖・二糖などの分類・構造・性質について学ぶ。 ・多糖の構造・分類・性質について学ぶ。また, セルロースの誘導体について学ぶ。		[]	
第2節 タンパク質	・アミノ酸の構造・性質について学ぶ。 ・タンパク質について, 構造・分類・性質を学ぶ。また, 生体内のタンパク質の例として, 酵素の特徴や性質を		[]	
第3節 核酸	・核酸の構造やはたらきについて学ぶ。	期末考査 表	[]	
2	第3章 合成高分子化合物			
	第1節 合成繊維	・縮重合による合成繊維, 付加重合による合成繊維について, いくつかの例をもとに構造や性質などを学ぶ。また, ビニロンの生成におけるアセタール化につい	ナイロン66の合成実験 表	[]
	第2節 合成樹脂	・樹脂は天然樹脂と合成樹脂に分類できること, 合成樹脂は熱可塑性樹脂や熱硬化性樹脂に分類されることを知り, それらの構造と物質の例, 原料, 性質について学	プラスチック製品の課題 環 国	[]
	第3節 ゴム	・天然ゴムとそれをまねた合成ゴムの原料や分子構造について, その性質と関連づけて学ぶ。		[]
	第6部 化学の築く未来			
	第1節 医薬品の開発	・医薬品などの有機化合物と生活との関わりを化学的な面から理解する。	化学史について 国	[]
	第2節 合成高分子の開発	・生活に欠かせないプラスチックや合成繊維の有効活用や今後の課題を理解する。		[]
	第3節 持続可能な社会を目指して	・暮らしを持続可能にいくため, 化学が果たせる役割について考える。	中間考査 表	[]
	第3部 無機物質			
	第1章 周期表と元素の分類			
第1節 周期表と元素の分類	・元素の性質を周期表の位置と関連づけて理解する。		[]	
第2章 非金属元素				
第1節 水素と貴ガス	・非金属元素の単体及び化合物について, それらの反応や性質を考えたり, 調べたりしようとする。		[]	
第2節 ハロゲン	・ハロゲンとその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]	
第3節 酸素・硫黄	・酸素・硫黄とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]	
第4節 窒素・リン	・窒素・リンとその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]	
第5節 炭素・ケイ素	・炭素・ケイ素とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。	二酸化窒素濃度による大気 の分析実験 表 環 期末考査 表	[]	
3	第3章 典型金属元素			
	第1節 アルカリ金属	・アルカリ金属とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]
	第2節 2族元素	・2族元素とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]
	第3節 アルミニウム	・アルミニウムとその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元などと関連づけて理解する。		[]
	第4節 スズ・鉛	・スズ・鉛とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元, 溶解度などと関連づけて理解する。		[]
	第4章 遷移元素			
	第1節 遷移元素	・遷移元素とその化合物の性質を, 電子配置や酸・塩基, 酸化・還元, 溶解度などと関連づけて理解する。		[]
	第2節 金属イオンの分離と確認	・金属陽イオンが特定の陰イオンとの反応により分離できることを学ぶ。	金属イオンの定性分析実験 学年末考査 表 環	[]

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物／北稜CANVASⅢ	5+1	3年・環境理数コース	
教科書	数研出版 生物	副教材	改訂版 リードα生物基礎＋生物	

1. 学習の目標

生物基礎で学習した内容をふまえて、生物や生命現象にさらに関心を高め、理解を深める。生物学上の概念や原理・法則を深く理解し、自分自身や周囲の自然環境、日常生活で起こる現象を科学的に観察・考察できるように学ぶ。また、実習や演習の時間を通して生命現象を身近に体験し、それを他に伝えられる能力を高めていく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

毎回の授業を大切に、授業内で疑問に思ったことがあれば、自分で調べたり、友人や教員に聞いたりと解決につなげましょう。基礎力は、考査直前だけではなく、毎回の授業後に問題演習に取り組むことで身に付きます。また予習、復習として教科書を音読することも効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	定期考査、レポート内容等 観察・実験の技能・表現
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、レポート内容(考察)等
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

「生物」は決して暗記科目ではありません。細胞と細胞のつながり、体内と体外、同じ種類の生きもの、違う種類の生きもの、地球規模の環境など、大小さまざまな関係によってつくられている大きな世界の物語を理解する学問です。その一つ一つを一緒に学んでいきましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動(観点)	自己評価
1	第1章 生物の進化			
	1. 生命の起源と生物の進化 生物の多様性と共通性, 原始地球と有機物の生成, 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 真核生物の出現と進化	生命の起源として, 無機物から有機物が生じ, 有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと, 地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。		[]
	2. 遺伝子の変化と多様性 遺伝子と形質, ゲノムの多様性	生物の形質の変化は, 遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって, 遺伝的な多様性が生じることを理解する。		[]
	3. 遺伝子の組み合わせの変化 減数分裂と受精, 染色体と遺伝子, 遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂の過程では, 染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては, 親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で, 遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。	観察1 減数分裂の観察(①、②、③)	[]
	4. 進化のしくみ 進化と突然変異, 集団としての進化, 実際の生物集団と進化, 種分化	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度に変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	実験1 遺伝子頻度の変化シミュレーション(①、②、③)	[]
	5. 生物の系統と進化 生物の分類, 生物の系統と系統樹, 生物の系統と分類	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から, 生物の系統を推定できることを理解する。生物が, 系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。		[]
	6. 人類の系統と進化 人類の祖先, 人類の進化	人類が, 霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として, 直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	実習1 類人猿とヒトの姿勢と直立二足歩行(①、②、③)	[]
	第2章 細胞と分子			
	1. 生体物質と細胞 細胞を構成する物質, 原核細胞と真核細胞の構造, 真核細胞の構造と機能, 生体膜の構造	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。		[]
	2. タンパク質の構造と性質 タンパク質とは, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	ノート提出(①) 中間考査(①、②)	[]
3. 化学反応にかかわるタンパク質 酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらき 酵素の基本的なはたらき, 酵素のはたらきと反応条件, 酵素反応	酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらきについて理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	実験2 カタラーゼのはたらき(①、②、③)	[]	
4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 膜輸送にかかわるタンパク質, 情報伝達にかかわるタンパク質	生体膜を介した物質輸送と, それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。		[]	
第3章 代謝				
1. 代謝とエネルギー 生物とエネルギー, 生体内の化学反応	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり, 反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。		[]	
2. 呼吸と発酵 呼吸とは, 呼吸の過程, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	呼吸では, 有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され, ATP が合成されることを理解する。発酵では, 酸素を用いずに有機物が分解され, ATP が合成されることを理解する。	実験3 細胞内ではたらく酵素による酸化還元反応(①、②、③) 実験4 アルコール発酵(①、②、③)	[]	
3. 光合成 光合成とは, 光合成のしくみ, 細菌の光合成	光合成では, 光エネルギーを用いてATPと電子の運搬体が合成され, これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	実験5 植物の光合成色素の分離(①、②、③) ノート提出(①) 期末考査(①、②)	[]	
第4章 遺伝情報の発現と発生				
1. DNAの構造と複製 DNAの構造, DNAの複製	DNA について, 2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。		[]	
2. 遺伝情報の発現 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い	DNA の遺伝情報を写し取って, RNA が合成されるしくみを理解する。転写されたRNA から, タンパク質が合成されるしくみを理解する。		[]	
3. 遺伝子の発現調節 遺伝子の発現調節, 原核生物の発現調節, 真核生物の発現調節	遺伝子の発現が, 環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において, それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。	実験6 遺伝子発現の変化(①、②、③) 実習4 オペロンの発現調節のしくみ(①、②、③)	[]	
4. 発生と遺伝子発現 発生と遺伝子発現, 動物の配偶子形成と受精, カエルの発生, カエルの発生と遺伝子発現, ショウジョウバエの発生と遺伝子発現	発生の過程で, 遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は, 細胞内の物質のはたらきや, 他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。	観察2 ウニの受精の観察(①、②)	[]	
5. 遺伝子を扱う技術 遺伝子を導入する技術, 遺伝情報を解析する技術, 遺伝子発現を解析する技術, 遺伝子を扱う技術と人間生活	遺伝子を扱うさまざまな技術について, その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が, 私たちの生活に与える影響を理解する。	実験7 遺伝子組換え実験(①、②)	[]	

2	第5章 動物の反応と行動			
	1. 刺激の受容 刺激の受容から行動まで、受容器と適刺激、視覚器、その他の受容器	視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。	観察3 プタの眼の解剖(①、②、③) 実習2 盲斑の検出(①、②、③)	【 】
	2. ニューロンとその興奮 受容器から脳への連絡、ニューロンの構造、ニューロンの興奮、興奮の伝導と伝達	ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンへと伝えられることを理解する。		【 】
	3. 情報の統合 神経系、中枢神経系	ヒトの神経系が、末梢神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。	観察4 さまざまな動物の脳の観察(①、②、③) ノート提出(①) 中間考査(①、②)	【 】
	4. 刺激への反応 筋肉の構造と収縮	効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。		【 】
5. 動物の行動 動物の行動とその連鎖、いろいろな生得的行動、学習と記憶	動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。	実験8 ヒトの試行錯誤学習(①、②、③)	【 】	
第6章 植物の環境応答				
3	1. 植物の生活と植物ホルモン 植物の生活と反応	植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。	実験9 リンゴの果実が植物の芽ばえに与える影響(①、②、③)	【 】
	2. 発芽の調節 種子の休眠と発芽、種子の発芽と光	植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと、その意義を理解する。	実験10 種子の発芽と胚のはたらき(①、②、③)	【 】
	3. 成長の調節 植物の成長と光、植物の成長と重力	植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。		【 】
	4. 器官の分化と花芽形成の調節 植物の器官と組織、花芽形成の調節	植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。	観察5 シロイヌナズナの花の構造(①、②、③)	【 】
	5. 環境の変化に対する応答 物質の出入りの調節、植物の防御応答	植物が、環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。植物が、病気や食害、生育に不適当な環境で、どのように自身を守っているのかを理解する。		【 】
	6. 配偶子形成と受精 被子植物の配偶子形成と受精、胚や種子の形成と果実の成熟	被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。	観察6 花粉管の伸長の観察(①、②、③) ノート提出(①) 期末考査(①、②)	【 】
第7章 生物群集と生態系				
3	1. 個体群の構造と性質 個体群、個体群の成長と密度効果、個体群の年齢構成と生存曲線	個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は、その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。	実験11 ウキクサの個体群の成長(①、②、③)	【 】
	2. 個体群内の個体間の関係 群れ、縄張り、社会の構造と分業	同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。		【 】
	3. 異なる種の個体群間の関係 生物群集、被食者-捕食者相互関係、種間競争、生態的地位と共存、さまざまな共生、かく乱と種の共存	生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。		【 】
	4. 生態系の物質生産と物質循環 生態系の構成とつながり、生態系における物質生産、生態系における物質収支、物質循環とエネルギーの流れ	上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量にかぎりがあがることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について、それぞれの特徴を理解する。		【 】
	5. 生態系と人間生活 生物多様性とその恩恵、人間活動が生態系に影響を与えるしくみ、私たちの生活と生態系	生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。	実習3 生態系の維持と農林水産業の両立について考えてみよう(①、②、③) ノート提出(①) 学年末考査(①、②)	【 】

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	物理/北稜CANVASⅢ	5+1	3年環境理数コース	
教科書	数研出版 物理	副教材	数研出版 新課程 リードα 物理	

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・授業に集中し、授業内容をその場その場で確実に理解し、問題集で演習しながら復習する。
- ・問題を解く際に、図を用いたり、考えや理由、途中の計算式を書きながら解く。
- ・何度も問題を解く上で、分からない問題を中心に何度も解き直すことが、受験対策にも繋がる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト (学習内容を理解し、知識が定着しているか)
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト (得た知識を用いて、思考したり、表現しているか) ・実験、観察レポート (実験データを目的に応じて表やグラフで適切に分析したり、表現しているか)
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業プリントの書き込み (空欄を埋めるだけでなく、授業で大切だと思ったことや疑問点、より深く追究してみたいことを記入し、自ら学びを深めようとしているか) ・実験、観察レポートの考察 (実験の目的に沿ってデータを分析するとともに、自分で調べた内容を追加したり、新たに生じた疑問や課題を発見し探究しようとしているか)

4. 担当者からのメッセージ

2年時の物理基礎で学んだ「力学」「熱」の内容をさらに発展させるとともに、新たに「光」、「電磁気」、「原子・分子」などの分野も学習します。物理は、特に現象をイメージすることが大切であり、日常に溢れている自然現象について考えることが、物理学の理解に繋がります。普段の生活の中にある、何気ない「なぜ？」と感じる自然現象に目を向けてみて、この授業で学んだことと繋げて考えてみると、新たな発見ができるかもしれません。ぜひ、一緒に物理学を探究していきましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	<p>第1編 力と運動</p> <p>第1章 平面内の運動</p> <p>第2章 剛体</p> <p>第3章 運動量の保存</p> <p>第4章 円運動と万有引力</p>	<p>平面上の運動について、速度や加速度のベクトルを用いた扱いを理解する。放物運動における速度ベクトルを水平成分と鉛直成分とに分解し、定量的に理解する。</p> <p>剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まることを理解する。</p> <p>物体の衝突や分裂について考え、力積と運動量の関係、運動量保存則について理解する。</p> <p>等速円運動、単振動、万有引力について、それぞれを関連させながら理解している。</p>	<p>小テスト 実験・観察レポート</p> <p style="text-align: center;">表現</p> <p>〈中間考査〉</p> <p>〈期末考査〉</p> <p style="text-align: center;">表現</p>	
2	<p>第2編 熱と気体</p> <p>第1章 気体のエネルギーと状態変化</p> <p>第3編 波</p> <p>第1章 波の伝わり方</p> <p>第2章 音の伝わり方</p> <p>第3章 光</p> <p>第4編 電気と磁気</p> <p>第1章 電場</p> <p>第2章 電流</p> <p>第3章 電流と地場</p> <p>第4章 電磁誘導と電磁波</p>	<p>ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則について理解している。</p> <p>物理基礎で学んだ、波の反射、屈折に加えて、干渉、回折の現象について理解している。</p> <p>音は波としての性質を持つことを理解している。ドップラー効果について理解している。</p> <p>光は波としての性質を持つことを理解している。レンズや、ヤングの実験、薄膜による光の干渉などの現象について理解している。</p> <p>クーロンの法則や電場、電位について理解している。コンデンサーのしくみについて理解している。</p> <p>直流回路について、オームの法則やキルヒホッフの法則について理解している。</p> <p>電場と対比させながら、磁場について理解している。ローレンツ力について理解している。</p> <p>電磁誘導の法則について理解している。交流電圧、交流電流について理解している。</p>	<p>小テスト 実験・観察レポート</p> <p style="text-align: center;">環境</p> <p>小テスト 実験・観察レポート</p> <p style="text-align: center;">表現</p> <p>〈中間考査〉</p> <p>小テスト 実験・観察レポート</p> <p style="text-align: center;">表現</p> <p>〈期末考査〉</p>	
3	<p>第5編 原子</p> <p>第1章 電子と光</p> <p>第2章 原子と原子核</p>	<p>光電効果やコンプトン効果などについて理解している。</p> <p>原子の構造や核反応などについて理解している。</p>	<p>小テスト 実験・観察レポート</p> <p style="text-align: center;">表現</p> <p>〈学年末考査〉</p>	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物	4	3年・英語人文コース	
教科書	生物 数研出版	副教材	改訂版 リードLightノート生物	

遺伝子の変化と多様性

1. 学習の目標

生物基礎で学習した内容を踏まえて、生物や生命現象について関心を高め、生物学上の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観と生命観を身に付けます。観察や実験を通して、科学的に探究する態度、自分で考察する力を育み、これからの生活に役立てます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

教科書を読み説明を聞いて、何故そうなるのかを考え、ノートに記入していきましょう。要は授業を大切に、集中して取り組むことが1番の学習法です。週末には問題集から課題を出すので、ノートに解答し、合わせをしておきましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	定期考査で必要な知識の定着がみられるか 観察・実験の正しい技能が身につけているか
②思考 1. 代謝とエネルギー 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	既習事項を元に、実社会での諸問題を考察できるか 観察におけるスケッチや、実験の結果から分かったことを適切に表現できるか
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	授業を理解しようと努力しているか 自主的に実験に取り組み、考察しようとしているか ノート・課題・レポート等が不足なく提出できるか

4. 担当者からのメッセージ

「生命」とは何か？この大きなテーマに挑みます。文系・理系にかかわらず決して特殊なテーマではありません。将来どのような分野に進もうとも、命の問題は一人一人必ず関わらざるを得ないものです。興味と関心を持って授業に臨んでください。広大な未知の世界への扉を開けることにつながると思います。

生物年間学習計画(3年生英語人文コース4単位)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	
1	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変異 4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化	・生物の共通性と多様性について、無機物から有機物が生じ、有機物が集まって細胞や生命が誕生した過程を理解する。 ・生物の形質の変化が、遺伝子の変化によって生じることや遺伝子の突然変異によって、遺伝的な多様性が生まれることを理解する。さらに、進化の原動力としての自然選択や遺伝的浮動を理解する。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">国</div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> </div>
	第2章 生命現象と物質 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	・細胞を構成する物質について知る。 ・特にタンパク質について、基本的な構造と酵素など、その立体構造と生命活動において果たす役割との関連を理解する。 ・細胞小器官や細胞骨格、生体膜などの細胞の内部構造について知る。 ・物質輸送や情報伝達・認識に関わるタンパク質について知る。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> </div>
	第3章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成	・生体内でおこる酸化還元反応では大きなエネルギーが出入りすることを理解する。 ・呼吸と発酵では、有機物が酸化される課程でATPが合成されることを理解する。また両者の違いについて理解する。 ・光合成では、光エネルギーを用いてATPが合成され、二酸化炭素を用いて有機物が生じることを理解する。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> </div>
2	第4章 遺伝情報の発言 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発言 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	・DNAの構造および複製の仕組みについて理解する。 ・遺伝情報の転写・スプライシング・翻訳等のタンパク質合成についてその仕組みを理解する。 ・遺伝情報の転写の調節について概要を理解する。 ・発生の過程で、細胞が分化するしくみを理解する。 ・バイオテクノロジーの原理と有用性について知る。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">国</div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>
	第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	・受容器で受け取られた刺激が、神経系を介し、効果器へ至る経路を理解する。 ・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とその働きを理解する。 ・中枢神経系の構造や働き、反射の経路を理解する。 ・主に筋肉の構造と収縮の仕組みを理解する。 ・生得的行動や学習等、色々な行動について理解する。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">国</div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>
3	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	・植物の環境応答が、植物の生き残り戦略であることを理解している。 ・植物が環境からの刺激を受容し、細胞間でその情報を伝達して反応していることを理解している。 ・環境の変化に対する植物の反応について、屈性と傾性の違いを理解している。 ・植物の反応は環境の変化を感知して情報伝達がなされて起こることを理解している。	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">環</div> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">表</div> </div>

理科ルーブリック

ノート・プリント提出

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容が不十分である。

実験・観察

	A	B	C	D
知識・技能	実験操作を、適切に行うだけでなく、実験器具等の使用目的を理解し正確に操作できる。	おおむね実験操作を適切に行うことができる。	おおむね適切に行うことができるが、一部誤った手順が見られる。	適切な実験操作を行う事ができない。

実験・観察

	A	B	C	D
思考・判断・表現	実験データを基に考察し、自分の考えをまとめ、言葉や図、グラフ等で的確に表現できる。	おおむね実験データから自分の考えをまとめられる。	実験データを整理することができるが、自分の考えを表現できない。	実験データを整理することができない。

実験・観察

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	実験の内容をよく理解し、結果を予測しながらデータを整理し、理論値との差違とその理由を考えることができる。	実験データと理論値の差違を指摘することができる。	考察がデータのみの記載にとどまり、その結果の判断が不足している。	データの記載も不完全であるか、明らかに他の生徒のものを転記している。

プレゼンテーション

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えたいという熱意が感じられる。	準備した内容を要領よく発表することができる。	発表の内容は適当であるが、データのまとめ方や発表の技術が不十分で、内容相手に十分に伝わりにくい。	発表の内容自体が稚拙で、伝えようとする意欲も感じられない。

グループ学習

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。簡潔に学習内容を発表することができる。	学習内容を理解し、結論を導き出すために協調して作業することができる。	学習内容は理解しているが、積極的に作業に参加する意欲に欠けている。	学習内容は理解せず、グループの作業に積極的に参加しない。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	3年総合探究コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等) 種目における計画書の作成(授業計画案・ルール等) 種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント等)
②思考力, 判断力, 表現力等 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等) 学習カード(個人カード・ロイロノート)
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようとする事ができ、主体的に取り組むことができている。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができている。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができている。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができている。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	種目選択① 2単位 4種目から1種目選択 ・バスケットボール ・サッカー ・ハンドボール ・ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心をもち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができている。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	選択種目① 1単位 「陸上競技」 「ダンス」 「武道」 (剣道) の中から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ○個人種目の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にもなつてプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分の課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 B「陸上競技」 ○より遠くへ(高く)跳ぶために自らの能力に応じた技能を習得している。 ○自分の能力に応じた技能で、遠くへ投げることができている。 C「ダンス」 ○踊ることに興味を持ち、自ら進んで学習することができる。 ○ダイナミックにリズムカルに踊ることができる。 D「剣道」 ○木刀による剣道基本技稽古法を理解し、互いに教え合うことができる。 	参加状況・片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
2	体育理論 3豊かなスポーツライフの設計	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツの見方や考え方について自ら進んで学習することができる。 ○自身のライフスタイルに合わせたスポーツとのかかわり方について考えることができる。 ○スポーツを推進する取り組みについて理解することができる。 	レポート提出①② 小テスト①
	種目選択② 2単位 4種目から1種目選択 ・バドミントン ・テニス ・卓球 ・バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心をもち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができている。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	種目選択③ 1単位 4種目から1種目選択 ・バドミントン ・サッカー ・卓球 ・バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心をもち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができている。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
3	球技大会	<ul style="list-style-type: none"> ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができている。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①②

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	スポーツⅡ	2	3年総合探究コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 種目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等) 種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント等)
②思考力, 判断力, 表現力等 種目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習カード(個人カード・ロイロノート) (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	<p>ゴルフ</p> <p>・アイアインを中心としたスイングの基本</p> <p>・ゴルフの基本マナー</p>	<p>○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。</p> <p>○協力して準備や後片づけができている。</p> <p>○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。</p> <p>○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができている。</p> <p>○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができている。</p> <p>○ゴルフのルールやマナーを理解することができている。</p>	<p>参加状況・準備片付け(③)</p> <p>レポート提出(①②)</p> <p>技能テスト(①)</p>
2	<p>ゴルフ</p> <p>・アイアインを中心としたスイングの基本</p> <p>・ドライバーなどの長いクラブの挑戦</p> <p>・自己のスイングフォームの課題</p>	<p>○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。</p> <p>○協力して準備や後片づけができている。</p> <p>○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。</p> <p>○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができている。</p> <p>○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができている。</p> <p>○ゴルフのルールやマナーを理解することができている。</p>	<p>参加状況・準備片付け(③)</p> <p>レポート提出(①②)</p> <p>技能テスト(①)</p>
3	<p>ゴルフ</p> <p>・ドライバーなどの長いクラブの挑戦</p> <p>・自己のスイングフォームの課題</p>	<p>○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができている。</p> <p>○協力して準備や後片づけができている。</p> <p>○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。</p> <p>○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができている。</p> <p>○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができている。</p> <p>○ゴルフのルールやマナーを理解することができている。</p>	<p>参加状況・準備片付け(③)</p> <p>レポート提出(①②)</p>

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽Ⅲ	2	3年・総合探究コース（選択）	
教科書	Joy of Music（教育芸術社）	副教材	改訂 音楽通論（教育芸術社）	

1. 学習の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を伸ばすことを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

音楽Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎をもとに発展的な内容に取り組みます。課題と向き合い、あきらめずに練習を繰り返すこと。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシートの内容 ・グループ発表及び個人での課題発表に取り組む姿勢 ・提出物の提出状況と内容

4. 担当者からのメッセージ

自信をもって発表ができるよう、練習時間を大切にしましょう。より魅力的な表現を目指して、何事にも積極的に、根気よく取り組みましょう。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	・オリエンテーション	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。		
	・声の世界	○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫している。 ○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。	振り返りシート 実技試験 ワークシート	【 】 【 】
	・器楽の世界 (ギターとキーボード)	○基本的な奏法を発展させ、演奏を工夫する。 ○各自、得意とする楽器演奏等について深く追求する。	振り返りシート 実技試験	【 】
	・楽典 ・鑑賞	○楽曲の形式や音程、コード理論を理解する。 ○各時代の作品に興味・関心を持つ。 ○音楽を形づくっている要素との関わりに注目してよさや美しさを味わって聴く	ワークシート 鑑賞プリント	【 】 【 】
2	・声の世界(重唱、合唱)	○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫している。 ○各パートの役割を理解して表現する。 ○今までの学習を生かして効果的に表現する。	振り返りシート 実技試験	【 】 【 】
	・選択器楽 (ギター又はキーボード)	○編曲による演奏効果を理解して自分の技能に合わせて工夫する。	実技試験	【 】
	・鑑賞	○総合芸術に興味・関心を持つ。 ○作品の文化的・歴史的背景を理解し、よさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント	【 】
3	・鑑賞	○音楽と社会の関わりに興味・関心を持つ。 ○作品の文化的・歴史的背景を理解し、よさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント	【 】

	A	B	C
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を十分に身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造についていくつか理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造についての理解が不十分である。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表すことが不十分である。
②思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるか考えを深め、表現意図をもっている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつことが不十分である。</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が常にあり、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が一定程度あり、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢がなく、主体的・協働的な取り組みが不十分である。</p>

鑑賞

	A	B	C
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについていくつか理解している。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて一定程度理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについての理解が不十分である。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについての理解が不十分である。
②思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて深く考え、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことが不十分である。</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに強く関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに一定程度関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に取り組むことが不十分である。</p>

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術Ⅲ	2	3年・総合探究コース(選択)	
教科書	美術3 光村図書	副教材		

1. 学習の目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容 ・作品についての発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の提出状況と内容 ・課題に取り組む姿勢

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどうのような表現をしたいと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅲ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□日本と西洋の美術の表現方法の違いについての考察している。 □シルクスクリーンの技法を理解し、オリジナルのデザインによるエコバックを制作している。	ワークシート 国際	【 】
	・版画(シルクスクリーン)	□直接描くのではない間接的な描画での表現を工夫しながら制作している。 □表現方法をこれまでの学習経験をもとに各自が工夫し、表現効果を活かした作品にしている。	課題作品(アイデアスケッチ含) 表現	【 】
	・鑑賞会	□他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
2	(選択)	□自主制作をするための計画を各自で立て、それに沿って制作を進めている。 □材料用具の使用の理解を深め、適切に使用している。	ワークシート(計画予定表)	【 】
	1 絵画	1 構想画 内面的世界等を表現する。構図、形(デフォルメ)、色、マチエールなどの追求をして、制作している。	課題作品 表現	【 】
	2 版画(木版画)	2 木版画(凸版) 技法や表現の特徴を理解し、各自で生成したテーマで制作している。		
3 立体	3 立体 素材や技法、その特徴を理解し、各自で生成したテーマで制作している。 □他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート(発表)	【 】	
3	・版画(ゴム)	□絵手紙に押すための効果的なオリジナルスタンプを制作している。 □いろいろな描画用具を使って墨に親しんで描いている。	課題作品 国際	【 】
	・水墨画	□日本や中国の水墨画の模写を体験し、筆で自由な線を描けるように練習している。 □高校生活最後の思いを絵や文字によってあらわし、絵手紙に仕上げています。	課題作品 表現	【 】
	・3年間のまとめ	□高校での美術学習を振り返って反省とまとめを行い、これからの美術とのかかわりについて考えている。	ワークシート(発表)	【 】

芸術(美術)ルーブリック	A	B	C
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解することが難しい。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫することが難しい。
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解することが難しい。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に粘り強く取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことが難しい。

芸術（工芸Ⅲ）ルーブリック

	A	B	C	D
①知識及び技能	材料や工具の使用についての知識や加工技術を習得し、表現しようとする作品について高いレベルで実現できる。	材料や工具使用についての知識や技術を習得し、作品表現できる。	材料や工具使用についての知識や技術の習得が少し不十分であり、作品の完成度も不足している。	材料や工具使用についての知識や技術の習得ができていない。課題に応じた作品が表現できない。

	A	B	C	D
②思考・判断・表現	課題の内容を深く理解し、素材に応じて制作方法を工夫しながら独自の表現ができる。	課題の内容を理解し、素材に応じて表現可能な発想・構想ができる。	課題の内容の理解や、表現可能な発想力や構想力に不十分なところがあり、十分な作品を完成させることができない。	課題の内容を理解できておらず、作品として表現可能な発想・構想ができない。
（鑑賞）	作品の良いと思われる点について多角的に鑑賞でき、豊富な言葉を用いて独自の考えがまとめられる。	作品の良いと思われる点について鑑賞でき、考えがまとめられる。	作品の鑑賞に際して感じたことや考えをまとめ表現するのに不十分な点がある。	作品の良さを味わうことができず、感じたことや自分なりの考えも表現できない。

	A	B	C	D
③主体的に学習に取り組む態度	課題について強く関心を持ち、主体的・計画的に課題を進めていくことができる。提出物は工夫して丁寧に仕上げ、締切日に提出できる。	課題に関心を持ち、計画通りに課題を進めていくことができる。提出物は締切日に完成し提出できる。	課題に向かう意欲が少し不足している。提出物を締切日を過ぎて提出したり、締切までに提出しても完成度が低く丁寧に欠ける。	課題に取り組もうとする意欲が感じられず、締切日を過ぎてても作品が提出されない。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (ポイント)	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション 生活シーンを考える ・装 ・伝 ○スクリーン版画 プリントTシャツの制作 ・カッティング法 グランド原紙を使って	<input type="checkbox"/> さまざまな生活のシーンを想定して装いについて考えたり、公共の場におけるサインデザインについて見識を深める。 <input type="checkbox"/> シルクスクリーン版画の手法を用いて独創的なTシャツをつくる。 <input type="checkbox"/> シャープな輪郭とインクの色の一貫性と平滑な定着面を考慮したデザインが考えられる。 <input type="checkbox"/> 版の重なりと刷りの順番を計画的に考え、美しく仕上げる。	・アイデアスケッチ提出 ・カンパ（完成予定図）提出	【 】 【 】
	・写真製版法 感光乳剤を使って ・鑑賞	<input type="checkbox"/> カッティング法と写真製版法の違いについて知り、表現できる内容の違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 自分で準備した写真もしくは手書きの原稿を用いて個性的なビジュアル表現ができる。 <input type="checkbox"/> 感光乳剤の塗布などの技能をマスターし美しく製版することができる。 <input type="checkbox"/> プリントに際し効果的な色彩表現ができる。 <input type="checkbox"/> 自他の表現の違いを理解し、それぞれの良さを記述できる。	・写真原稿の準備または手書き原稿の作成 提出 表現 ・プリントTシャツ作品提出 ・鑑賞ワークシート提出	【 】 【 】 【 】
2	○編組工芸 ・制作Ⅰ天然材料（籐） 丸底かご	<input type="checkbox"/> 天然素材と人工材料の良さを比較し、その違いを感じながら環境と工芸を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 用途（入れるものは何か）を考えて、それに適した大きさ・形をデザインできる。 <input type="checkbox"/> 米字組をマスターし、作品としてよりよく表現できる。 <input type="checkbox"/> ラタン製品について知り、生産される地域について関心を持つ。 <input type="checkbox"/> 天然素材の性質を知り柔軟に扱うことができる。	環境 ・アイデアスケッチ提出 国際 ・籐芯で制作した丸底かごの提出	【 】 【 】
	・制作Ⅱ人工材料（紙芯材） 角底かご ・鑑賞	<input type="checkbox"/> 牛乳パックや古紙から再生されたリサイクル素材を使うことで、環境にやさしい取り組みについて考える。 <input type="checkbox"/> 制作を通して人工素材の特徴を積極的に理解する。 <input type="checkbox"/> 天然材料と人工材料について様々な面から比較検討を行い、その違いについてまとめる。 <input type="checkbox"/> 美しく、使いやすい作品とは何かについて考えをまとめる。	・アイデアスケッチ提出 ・紙芯材で制作した角底かごの提出 ・発表用レポート原稿の提出 ・鑑賞ワークシート 表現	【 】 【 】 【 】 【 】
3	○光の立体 (LEDライトを使って) ・鑑賞 ○3年間のまとめ ・工芸史	<input type="checkbox"/> 発光ダイオードの進化で生活環境を照らすあかりは変化し、様々な場所で活用されていることを知る。 <input type="checkbox"/> 照明の種類やデザインに関心を持ち、構造や機能、光源と照明方法などを積極的に調べる。 <input type="checkbox"/> 照明する場所や光による演出を考え、ランプシェードを制作する。 <input type="checkbox"/> 制作した作品について振り返り、他者の作品の良さを鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 3年間の工芸受講について感想をまとめる。 <input type="checkbox"/> 暮らしの中に受け継がれてきた工芸の歴史と伝統を理解する。	・スケッチとレポート提出 ・立体作品の提出 表現 ・アイデアスケッチまたは鑑賞ワークシート ・レポート提出	【 】 【 】 【 】 【 】

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅲ	2	3年・総合探究コース（選択）	
教科書	『工芸Ⅰ・工芸Ⅱ』（日本文教出版）		副教材	『美術資料』（秀学社）

1. 学習の目標

自己の美意識や思い、大切にしていることなどから独創的に発想したり、個性を活かして創造的な制作をすることができる。生活様式や生活意識なども考慮しながら、社会や生活環境における美的で有用な工芸について考察できる。作品の鑑賞に際して、作者の意図や表現形式など深く読み取り味わい、文章にして表現できる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

工芸Ⅱでの制作経験を踏まえて、さらによりよい表現を目指すには意識的に鑑賞の機会を増やすことが大切です。発想力や技術力の向上には良いものを見極める目を持つ必要があります。美術館や博物館に行くことはもちろん、百貨店や画廊などの企画展に行って鑑賞するのも、見る目を肥やすにはいい方法です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	カンブ（実物大の下図）の作成・作品表現等
②思考・判断・表現 感性や想像力を働かせて自然や素材・社会的な生活や自己の思いなどから、心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて、制作の構想を練っているかどうかを評価します。 (鑑賞) 作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、制作過程における工夫や素材の活かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めているかを評価します。	アイデアスケッチ・制作の構想図等 ワークシート、レポートの内容等
③主体的に学習に取り組む態度 題材の内容に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、すすんで創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	制作（受講）態度、課題・レポート・アイデアスケッチ等の提出 授業への出席状況等

4. 担当者からのメッセージ

1学期から意欲的に課題に取り組んでください。工芸室でしかできないことはたくさんあります。ものづくりの経験を着実に自分の中に蓄積していきましょう。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーションⅢ	4	3年 総合探究クラス	
教科書	LANDMARK Fit English CommunicationⅢ	副教材	Rapid Reading Level1(美誠社)・Listening Laboratory Standard β(数研出版)	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり、読んだりしたこ

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査) 基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。	話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題) 相手の話に同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができるか(振り返り等) ワークシート等の提出状況 ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

2年生までに身につけた基礎学力を土台として、さらに高度な文章を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする力を伸ばしていきましょう。また、進路実現のために主体的に学習に励むことはもちろん、受験が終わっても将来の学力のために学習を継続させましょう。言葉を通じて異文化を理解し、広い視野で世界をとらえてください。世界を知ると、自分や自分の国のこともっと見えてくるはず。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる ○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる	○適切な表現を用いて、即興で自分自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIIと共通）	Lesson1～ Lesson10
知識 ・ 技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening		[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技
思考 ・ 判断 ・ 表現	Reading		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度	Reading		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	リスニング特講	2	3年英語人文コース	
教科書	HyperListening Intermediate	副教材	CNN Workbook Extended Course	

1. 学習の目標

大学受験、特に共通テストでのリスニングテストに対応した英語を聞き取る力を高める。オーセンティックな音声を聞き、ストーリーや論の展開について中心的な事柄が理解できるようになる。そのために必要な語彙や文構造の習得、音声の変化についての理解と実践に努める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習として、語彙をチェックし、意味を確認しておく。復習では、語彙を定着させ、習った英文を暗唱できるレベルまで何度も音読(シャドウイング・オーバーラッピング等)する。滑らかに音読できるまで練習を繰り返す。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (主体的に学習に取り組む態度) コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力(思考・判断・表現) 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト
③英語:(思考・判断・表現) 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解(知識・技能) 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

正しいトレーニングをすれば、英語は必ず聞き取れるようになります。特に音声の特徴を理解し、実践するため音読活動やその他さまざまな活動に主体的に取り組んでください。ただし授業で取り組んだだけではリスニング力は伸びません。授業以外にどれだけ英語に触れるか、自宅で何度トレーニングを繰り返すかがカギになります。正しい方法で取り組みれば必ず力は伸びます。頑張ってください。

年間学習計画

		A1	A2	A2~B1	B1	B1~B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠		具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に应付することができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検		3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)		~689 (grade 2)	690~959 (grade 3/4)		960~1189 (grade 4/5/6)		1190~1280 (grade 6/7)
		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画 [科目名]

		HyperListening	CNN	テキスト3	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間						
	期末	1,2,3,4,5,6,7,8	1,2,3,4,5,6,7,8				
2学期	中間						
	期末	9,10,11,12,13,14,15,16	9,10,11,12,13,14,15,16				
3学期	中間						
	期末	17,18,19,20	17,18,19,20				

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語演習	2	3年総合探求コース	
教科書	It's a Long Story Basic (エスト出版)	副教材	Listening&Reading 2 LR (いいずな書店)	

1. 学習の目標

入試なども考慮に入れて、特に「読むこと」に重点的に取り組みます。今まで扱ってこなかったある程度の量の英文を読解し 様々な問題演習に取り組むことで、受験に必須の長文読解に関して、長文読解の苦手意識をなくし、入試を突破できる力を養うことを目標とします。その方策として、少し容易な速読演習にも取り組み、英文の長短に関わらず、要旨をとりながら的確に内容を読み取る力の習得を目指します。他に、「聞くこと」も補佐的に取り組み、英語全般のより深い理解も目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

目指すのは「早く正確に読む」です。教材はきちんと時間を決めて読み、問題を解く訓練を事前に（予習）することが大切です。読解力は『初見の文』にいかに対応できるかがカギとなるので、授業中に、決められた時間内で決められた量を読む速読演習を活用して力を養ってください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度（英語を用いようとする積極性） ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

「長文読解の苦手をなくす」のは、すぐにはできません。近道は、容易な文の速読を活用して、速読能力を鍛えることです。何事にも真摯に取り組むことが、入試突破への近道だと考えます。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる	○適切な表現を用いて、即興で自分自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる		○論理表現IIで学習する基本的な文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIIと共通）	Lesson 1 ～ Lesson10
知識・技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening		[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	Reading		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	Reading		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語長文演習	3	3年英語人文コース選択	
教科書	SKYWARD Ocean(桐原書店)	副教材	英語4技能型テストへのアプローチ2 (数研出版)	

1. 学習の目標

英語の言語としての構造（構文、文法、語彙など）を理解し、長文を正確に読み取る力を伸ばすことを目指す。様々なテーマの英語長文に数多く接し、英文の論理関係を把握する能力の育成を図り、長文入試問題に対応できる力を養成する。またリスニングを通して速読を目指す教材を用い、できるだけ速く英文の大筋を読み取る練習をする。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

辞書を使わず最初から最後まで読み進め、大意を取る。未知の単語や熟語、理解しにくい文の文法等を調べる。それでも理解できないところをチェックし、授業に臨み、疑問を解決する。復習において語彙文法の再確認を行い、音読により正しい発音とリズムをつかみ、読解力の定着を図る。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度（英語を用いようとする積極性）
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト等

4. 担当者からのメッセージ

「長文読解の苦手をなくす」のは、すぐにはできません。近道は、容易な文の速読を活用して、速読能力を鍛えることです。何事にも真摯に取り組むことが、入試突破への近道だと考えます。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる	○適切な表現を用いて、即興で自分自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる		○論理表現IIで学習する基本的な文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIIと共通）	Lesson 1 ～ Lesson10
知識・技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening		[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	Reading		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	Reading		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和7年度北稜シラバス

	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現Ⅲ	2	3年英語人文・環境理数コース	
教科書	My Way Logic and Expression Ⅲ	副教材	スタディサプリ等	

1. 学習の目標

2年次より継続して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
 ①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。
 ②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。
 ③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか 学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか
②思考・判断・表現 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考え、気持ちについて話し続けたり、論理的に話して文単位で伝えることができるか、また論理的に50語程度の英文で書くことができるか
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	聞いたり読んだりしたこと基に、聞き手に配慮しながら自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合おうとしているか。また、状況を把握し、粘り強く学習に取り組もうとしているか さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考えなどを理由や根拠とともに話そう、書こうとしているか

4. 担当者からのメッセージ

論理表現Ⅲの目標は裏面のCAN-Do listにある①話すこと(やりとり)②話すこと(発表)③書くことの3つです。今までに学習したことを基に、更に知識技能を身につけ、自分の言いたいことを英語で表現する力を伸ばしましょう。答えを写して覚えるだけでは実際の英作文の力にはつながりません。自分で英文を作り、自分が作った英文のどこがおかしいのかを確認することで力は伸びていきます。今後も必要となる表現能力を身に付けていきましょう。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3学年	<p>○対話の展開を意識して、やり取りすることができる</p> <p>○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる</p>	<p>○適切な表現を用いて、即興で自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる</p>	<p>○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2学年	<p>○文単位で話すことができる</p> <p>○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる</p>	<p>○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p>	<p>○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	<p>○フレーズ単位で話すことができる</p> <p>○英語らしい発音をすることができる</p>	<p>○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現Iで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を書くことができる</p>	<p>○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる</p> <p>○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を読むことができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

観点別目標

知識・技能	話すこと（やり取り）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。</p>
	話すこと（発表）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。</p>
	書くこと	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現Ⅲ	2	3年総合探究	
教科書	MY WAY Logic and Expression Ⅲ	副教材	スタディサプリ等	

1. 学習の目標

2年次より継続して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

○話すことの基本は、①正しく発音できる ②自分がいいたいことをもつ ③そのための表現を覚える ④声に出して言う です。
 ○書くことの基本は、①正しいスペリングを指先で覚える ②文法的に正しい文章を覚える ③書いた文章を音読する です。
 ○これらの基本を予習・授業・復習を通じて繰り返し、身に付けていきます。忘れたところに復習するとより効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	○単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか。 ○学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか。
②思考力・判断力・表現力 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	○さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考え、気持ちについて話し続けたり、論理的に話して文単位で伝えることができるか。 ○論理的に50語程度の英文で書くことができるか。
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	○聞いたり読んだりしたこと基に、聞き手に配慮しながら自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合おうとしているか。 ○状況を把握し、粘り強く学習に取り組もうとしているか。 ○さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考えなどを理由や根拠とともに話そう、書こうとしているか。

4. 担当者からのメッセージ

論理表現Ⅲの目標は裏面のCAN-Do listにある①話すこと(やりとり)②話すこと(発表)③書くことの3つです。今までに学習したことを基に、更に知識技能を身につけ、自分の言いたいことを英語で表現する力を伸ばしましょう。そのためには語彙を増やし、使える表現や文章を増やしましょう。最初は自分が伝えたいことにこだわるよりも自分が使える表現を優先してみましょう。話す力、書く力は、話す量、書く量に比例して伸びていきます。時間はかかりますが、時間をかけるほど確実に自分の力になりますよ。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる	○適切な表現を用いて、即興で自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	パフォーマンス	パフォーマンス	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2 学 年	○文単位で話すことができる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	パフォーマンス	パフォーマンス	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1 学 年	○フレーズ単位で話すことができる	○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Iで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる ○文構造を意識しながら英文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる ○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○英語コミュニケーションIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる ○文構造を意識しながら英文を読むことができる
	パフォーマンス	パフォーマンス	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

観点別目標

知識・技能	話すこと（やり取り）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。
	話すこと（発表）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。
	書くこと	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーションⅢ	4	3年 英語人文・環境理数	
教科書	LANDMARK English Communication Ⅲ	副教材	Rapid Reading Level3(美誠社)・Listening Laboratory (数研出版)	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査) 基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。	話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題) 相手の話と同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができているか(振り返り等) ワークシート等の提出状況 ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

2年生までに身につけた基礎学力を土台として、さらに高度な文章を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする力を伸ばしていきましょう。また、進路実現のために主体的に学習に励むことはもちろん、受験が終わっても将来の学力のために学習を継続させましょう。言葉を通じて異文化を理解し、広い視野で世界をとらえてください。世界を知ると、自分や自分の国のことももっと見えてくるはず。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる ○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる	○適切な表現を用いて、即興で自分自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	パフォーマンス	パフォーマンス	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト 定期考査 リーディングテスト	

		1	2
		文法事項（論理・表現IIIと共通）	Lesson 1 ~ Lesson10
知識 ・ 技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening		[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考 ・ 判断 ・ 表現	Reading		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的 に 学習 に 取 り 組 む 態 度	Reading		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭科	フードデザイン	2	3年総合探究コース	
教科書	フードデザイン(実教出版)	副教材		

1. 学習の目標

食生活に関心を持ち、基本的な調理技術や食を科学的に理解する力を身につけ、食事を総合的にデザインできるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

実習前や、実習後に自分1人で同じ献立を作ることです。実習の要点もふまえながら作ると頭に入ります。2度体験したことは、そう簡単に忘れません。定期考査の知識・理解の半分以上がその確認になります。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 ・実習
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・レポート(振り返り・まとめ) ・実習
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・実習 ・レポート(振り返り・まとめ)

4. 担当者からのメッセージ

ただ作って食べるだけでなく、どうしたら美味しく栄養も満たして作ることができるか科学的に探究してください。美味しい料理は人を幸せに出来ると思います。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	<p>第1章調理の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的 ・日本料理の基本献立 ・西洋料理の基本献立 ・中国料理の基本献立 	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式の基本献立の実習を通して、基本的な調理操作ができる。 ・各様式の基本献立の実習を通して、食品の調理特性等を理解している。 	<p>レポート・課題提出</p> <p>実習</p> <p>期末考査</p>
2	<p>第2章様式別の献立てと調理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食卓作法 ・日本料理 ・西洋料理 ・中国料理 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種様式の応用料理の実習を通してそれぞれの特徴を理解する。 ・各種様式の応用料理の実習を通して発展的な調理操作ができる。 ・各種様式の実習を通して、マナーを理解する。 	<p>レポート・課題提出</p> <p>実習</p> <p>期末考査</p>
3	<p>第3章献立作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成 ・バイキング実習の献立作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスのとれた献立を作成し、調理することができる。 	<p>課題提出</p> <p>実習</p>

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭科	保育基礎	2	3年・総合探究コース	
教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ	副教材		

1. 学習の目標

子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉、文化などのついて自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

教科書やノートを使用した講義が半分と、あとは課題学習、読み聞かせ実習、調理実習、保育園実習、赤ちゃんとのふれあい学習になります。講義はベースとなる基本的な知識を自分自身をふり返りながら身につけていきましょう。実習等はまず子どもに興味を持ち、積極的に参加することが必須です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章で評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期試験 各実習
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期試験 課題学習・各実習後のレポート
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	各実習および実習後のレポート

4. 担当者からのメッセージ

「子どもが好き」「子どもは可愛い」だけでは子どもは育ちません。じゃあどんなことが必要かな？様々な角度から考えてみてください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	<p>第1章子どもの生活</p> <p>1・子どもの食事</p> <p>2・子どもの衣服</p> <p>3・子どもの遊びと生活</p>	<p>・乳幼児の食事の重要性を、栄養面、食習慣から考え理解できる</p> <p>・新生児の衣服の特徴と衛生面について理解し、実行できる。</p> <p>・乳幼児の衣服の安全性について理解している。</p> <p>・児童文化財の意義について理解している。</p> <p>・適切な児童文化財を選択し表現活動をすることができる。</p>	<p>レポート提出</p> <p>調理実習</p> <p>沐浴実習</p> <p>読み聞かせ実習</p>
2	<p>第2章子どもの保育</p> <p>1・保育の意義と目標</p> <p>2・保育の方法</p> <p>3・様々な保育の場(保育園実習)</p>	<p>・保育の意義と目標について理解できる。</p> <p>・発達過程に応じた保育の方法を理解している。</p> <p>・発達過程に応じた児童文化財を提供できる。</p> <p>・保育園で幼児と接し、適切に関わることができる。</p>	<p>課題提出</p> <p>児童文化財製作</p> <p>保育園実習</p>
3	<p>第3章子どもの福祉と子育て支援</p> <p>1・子どもの福祉</p> <p>2・子育て支援</p>	<p>・子どもの貧困等、子どもを取り巻く現状の課題について考える。</p> <p>・現代の子育てにおいて、社会的な支援の必要性について知る。</p>	<p>レポート提出</p> <p>DVD視聴による課題提出</p>

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
情報	情報Ⅱ	2	3年総合探究コース情報Ⅱ選択者	
教科書	情報Ⅱ (東京書籍)	副教材	情報Ⅱ学習ノート (東京書籍)	

1. 学習の目標

情報Ⅰで学んだ情報セキュリティやプログラミングなどの基礎知識を持ち、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、ただの利用者や消費者ではなく、生産や制作をする立場への理解を深める高度な情報活用能力の習得することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

各章を横断、連携した学習を展開することで実習中心に内容を学習し、主体的・対話的で深い学びの観点から、演習や実習などを通して、理論的な学習内容を修得する。よって、定期考査だけでなく、実習や提出物など毎時間の授業を大切にす態度も不可欠である。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考査の基礎問題や演習課題の達成度を中心に評価する。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査の応用問題とPCを使った実習課題の達成度を評価する。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	主にPCを用いた実習時に自分なりの創意工夫が見られたり、与えられた課題をより発展させようとしているか等を評価する。

4. 担当者からのメッセージ

近年では身の回りのほとんど全てのモノや分野にコンピュータが組み込まれています。その仕組みや社会に与える影響を学習すること、つまり情報活用能力を習得することは、現代を生きる全ての人に必須だといえます。情報Ⅰで学習したことを活用しながら身の回りのたくさんのことに興味を持って学習を進めて欲しいと思います。評価においては講義や実習の取組状況の比重が高いため、普段の授業では適切にメモをとったり、実習手順を聞き逃さないよう集中して聞くことを心がけてください。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探求の時間	北稜CANVASⅢ	1	3年 総合探究コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

教科・科目・特別活動で身につけた知識や技術等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし総合的にはたらくようにする。個々の進路目標に沿った専門分野の文章を読み、知識を学び、読解力や思考力・判断力・表現力を身につける。また、演習やレポート作成、小論文模試を通して論理的思考力や論述力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

「北稜CANVAS I・II」で身につけた技能を用い、共生社会を構成する一員として、また自分の進路目標に合った課題を設定し、自ら考え意見を持てるようになってほしい。そのために、普段から社会や自分の進路に関係の深い分野について意見を言えるように、新聞やニュースを注意深く読んだり見たりして情報を集める必要がある。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章で評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	*積極的に辞書を引き、語彙力を増やす。 *文法的に正しい文章表現を行う。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	*相手に伝わりやすい文章表現を用いることができる。 *論理的かつ、説得力のある文章展開ができる。 *文の順序・段落をわかりやすく整理する。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	*課題レポートや授業のワークシートに真面目に取り組む提出しようとする。 *さまざまな話題を自分の身近に引き寄せ、深く考える習慣をつけようとする。

4. 担当者からのメッセージ

共生社会への貢献度の高い一員となるための力は、同時にあなたたちの未来・進路を切り開く力ともなります。社会的他者とのコミュニケーション能力の獲得を目指して、毎回の授業に積極的に参加して下さい。また、授業で課される課題や宿題は必ず毎回きちんと提出して下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	特色	評価方法	教材	自己評価
1	オリエンテーション	・1年間の活動内容や目標を理解する。					
	面接練習①	・質問課題を理解し、的確に記述できる。 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べることができる。	・面接質問ワークシートに回答 ・模擬面接を行う	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング①	・論理的な文章のポイントを理解できる。 ・表記上のルールを習得する。 ・進んで課題に取り組み、課題の意図に添って、自らの意見を的確に記述することができる。	・小論文に取り組み	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文頻出テーマ①	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマをチェックする	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	NIE活動①	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。	・新聞記事のリサーチ、発表	表現	・記述の点検 ・行動の観察	新聞紙	
2	面接練習②	・質問課題を理解し、的確に記述できる。 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べるができる。	・模擬面接 ・面接相互評価	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文頻出テーマ②	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマについて理解を深める	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング②	・進んで課題に取り組み、段落を意識した文章が書ける。	・小論文に取り組み	表現	・記述の分析	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング③	・進んで課題に取り組み、課題の原因から解決策を考えた文章が書ける。	・小論文に取り組み	表現	・記述の分析	小論文 チャレンジノート	
	NIE活動②	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。	・新聞記事のリサーチ、発表	表現	・記述の点検 ・行動の観察	新聞紙	
3	小論文頻出テーマ③	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマについて分析する	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探求の時間	北稜CANVASⅢ	1	3年 英語人文コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

教科・科目・特別活動で身につけた知識や技術等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし総合的にはたらくようにする。個々の進路目標に沿った専門分野の文章を読み、知識を学び、読解力や思考力・判断力・表現力を身につける。また、演習やレポート作成、小論文模試を通して論理的思考力や論述力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

「北稜CANVAS I・II」で身につけた技能を用い、共生社会を構成する一員として、また自分の進路目標に合った課題を設定し、自ら考え意見を持てるようになってほしい。そのために、普段から社会や自分の進路に関係の深い分野について意見を言えるように、新聞やニュースを注意深く読んだり見たりして情報を集める必要がある。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章で評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	*積極的に辞書を引き、語彙力を増やす。 *文法的に正しい文章表現を行う。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	*相手に伝わりやすい文章表現を用いることができる。 *論理的かつ、説得力のある文章展開ができる。 *文の順序・段落をわかりやすく整理する。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	*課題レポートや授業のワークシートに真面目に取り組む提出しようとする。 *さまざまな話題を自分の身近に引き寄せ、深く考える習慣をつけようとする。

4. 担当者からのメッセージ

共生社会への貢献度の高い一員となるための力は、同時にあなたたちの未来・進路を切り開く力ともなります。社会的他者とのコミュニケーション能力の獲得を目指して、毎回の授業に積極的に参加して下さい。また、授業で課される課題や宿題は必ず毎回きちんと提出して下さい。

令和7年度北稜シラバス

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	特色	評価方法	教材	自己評価
1	オリエンテーション	・1年間の活動内容や目標を理解する。					
	面接練習①	・質問課題を理解し、的確に記述できる。 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べるができる。	・面接質問ワークシートに回答 ・模擬面接を行う	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング①	・論理的な文章のポイントを理解できる。 ・表記上のルールを習得する。 ・進んで課題に取り組み、課題の意図に添って、自らの意見を的確に記すことができる。	・小論文に取り組み	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文頻出テーマ①	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマをチェックする	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	NIE活動①	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。	・新聞記事のリサーチ、発表	表現	・記述の点検 ・行動の観察	新聞紙	
2	面接練習②	・質問課題を理解し、的確に記述できる。 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べるができる。	・模擬面接 ・面接相互評価	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文頻出テーマ②	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマについて理解を深める	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング②	・進んで課題に取り組み、段落を意識した文章が書ける。	・小論文に取り組み	表現	・記述の分析	小論文 チャレンジノート	
	小論文トレーニング③	・進んで課題に取り組み、課題の原因から解決策を考えた文章が書ける。	・小論文に取り組み	表現	・記述の分析	小論文 チャレンジノート	
	NIE活動②	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。	・新聞記事のリサーチ、発表	表現	・記述の点検 ・行動の観察	新聞紙	
3	小論文頻出テーマ③	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。	・小論文に頻出するテーマについて分析する	表現	・記述の点検 ・行動の観察	小論文 チャレンジノート	

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVAS（社会・SDGsゼミ）	1	3年生環境理数コース・ 英語人文コース選択者	
教科書	基本解説「そだったのか。SDGs」	副教材		

1. 学習の目標

- ・SDGsに関する基礎知識と活用事例を理解できる。
- ・効果的な方法を用いてSDGsの啓発ができる。
- ・学校内外に対してSDGsの啓発効果が検証できる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

この講座は大学のゼミ形式でSDGsに関する理解を深め、多くの実践事例を参考に、校内外に啓発とその効果を見いだすことを目指している。少人数である事を活用し、課題に対して個々の考えを発信し、ディスカッションする事を通じて、新しい価値観を創造するということを心がけてほしい。日常からSDGsとその各目標に関する出来事に注目し、自らの考えを創造することが予習・復習に該当する。ディスカッションへの参加、意見交換、ポートフォリオの内容、発表等を通じて総合的に評価する。対外的な発表は、北稜祭（展示）の他、郊外でのポスター発表を予定している。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章による評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地域の実態にあった「問い」を立てる力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

少人数であることを活かして、大学のゼミ形式の授業を展開します。各々が課題に対して興味関心を抱き、個々の考えを発信し、ディスカッションする事を通じて、新しい価値観を創造するということを心がけてほしい。併せて、日常生活における様々な事象が、SDGsの各目標とどの様に複雑に関わり合っているのかを理解するようにしてほしい。ディスカッションを通じて「正解」を求めめるのではない。「答えのない価値観」に多面的にアプローチし、新しい発見を「コトバ」や「ART」等を通じて表現できる力もやşıなしてほしい。これらの能力は、大学入試や大学での研究活動で求められるものであり、その能力を早い段階から習得することは、履修者にとって大きなアドヴァンテージになると信じている。なお、本ゼミには次のステークホルダーがバックアップしてくれている。ホームページ等で各々の活動実績を確認してほしい。特定非営利活動法人テラ・スネッサンス、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク、公益社団法人日本国際民間協力会NICCO、NPO法人光の音符等

3年生 北稜CANVAS (SDGs) 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (ポイント・評価基準)	学習活動
1	(1) SDGsとは (2) 実践事例 (基本) (3) 個別研究	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する基本を理解する ・実践事例を通じ、SDGsの目標達成に向けた方法を見いだす ・個別研究を通じて、自らのテーマを探究する ・小さな発表会 ・質疑応答の作法を習得する 	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境</div> <div style="background-color: #d9534f; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">国際</div> <div style="background-color: #e69d00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> </div> 講義 個人ポート フォリオ
2	(4) 個別研究の発表と製作 (5) ポスター発表 ・校内発表 ・校外発表	<ul style="list-style-type: none"> ・個別研究とSDGsの関係性を見いだす ・ディスカッション ・製作 ・ポスター製作 ・発表練習 ・発表 ・フィードバック 	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境</div> <div style="background-color: #d9534f; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">国際</div> <div style="background-color: #e69d00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> </div> 調査活動 発表
3	(6) まとめ	・年間フィードバック	<div style="background-color: #e69d00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">表現</div> 発表 レポート

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVAS（社会・公園の防災調査）	1	3年生総合探究コース（選択）	
教科書	なし（プリントを準備します）	副教材		

1. 学習の目標

- ・学校周辺における公園の防災評価と併せ、災害時における公園活用と防災拠点としての活用の提案を行う。
- ・防災を意識した社会調査スキルを習得する。
- ・防災拠点の運営スキルを習得する。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

このプロジェクトはSDGs（持続可能な開発目標）の目標11「住み続けられるまちづくりを」をベースに、地域の防災を意識した社会調査スキルと防災拠点の運営スキルの習得を目指すものである。外部機関との連携による学びもあるため、あいさつ、迅速な行動、説明等の的確なメモ書きは不可欠である。また、フィールドワーク時には1時間歩き続け、情報収集をする体力も求められる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章による評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地域の実態にあった「問い」を立てる力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。 ④GISを活用する技能。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果をGIS等を使い適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

大学と関係機関と連携しながら、学校周辺の公園をめぐり情報を収集します。フィールドワークに必要な次のものを準備して授業に臨んでください。自転車は利用しません。全て歩いて調査を行います。

（１）ハード：歩きやすい靴、探検ボードまたは下敷き類、筆記用具、帽子、汗ふきタオル、体操服での参加可能。必要に応じてサングラス、ハンディファン、飲料水、雨具、防寒具、カメラ等。その他、特別に指示されたもの。

（２）ソフト：体力、気力（強い心）、向上心、コミュニケーション能力（あいさつ含む）

北キャンAWARDで発表をします。3学期当初に発表者を選考するので、立候補を含め心づもりをお願いします（定員4名）。

3年生 北稜CANVAS（公園の防災調査） 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	(1) 社会調査法 ・地域課題の発見 ・文献検索の方法 ・調査写真の撮り方 (2) 事例研究 1 ・地域課題の解決に向けて地元の高校生に期待されること ・防災拠点の運営スキル (3) 社会調査・防災調査 公園調査	・地域調査法の基本的スキルを習得する ・地域課題を発見することができる ・事例研究を通じて、地域課題における解決方法の糸口をさぐる ・防災拠点の運営スキルを習得するための実習・専門家による実習 ・公園調査のポイントを学ぶ	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">環境</div> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; text-align: center;">表現</div> 講義 個人ポートフォリオ 現地調査
2	(4) 公園の個別調査 ・学校周辺の公園を調査する (5) 公園の防災実態調査 ・防災機能個別調査（いくつかの公園の抽出調査） (6) 調査結果の共有	・現地踏査、写真撮影ができる ・写真撮影、計測調査、実用実験等ができる ・調査結果の分析と考察	<div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; text-align: center;">表現</div> 現地調査 個人ポートフォリオ 発表
3	(7) 北キャンAWARDに向けての準備	・パワーポイントの作成ができる ・発表原稿が取りまとめられる ・調査結果が発表できる	<div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; text-align: center;">表現</div> 発表 レポート

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜探究Ⅲ芸術	1	3年総合探究コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

日頃から見聞きする芸術作品について問いを見だし、自分で課題を立て、情報を整理・分析して他者にわかりやすく伝達するためにまとめる力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

自分の問いや、情報収集する中で生じた疑問点を大切にしながらさらに調べようという姿勢を持ち続けよう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章で評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	レポート、ポスター、プレゼンテーションの内容
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	レポート、ポスター、プレゼンテーションの内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	プレゼンテーション、課題に取り組む態度

4. 担当者からのメッセージ

限られた時間の中で深く探究できるよう、時間を有効に活用しよう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）
1	<p>[第1回プレゼンテーションに向けて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から見聞きする芸術作品について問いを見だし、自分で課題を立て、図書室の書籍を利用して情報を集める。 ・集めた情報を整理・分析してレポートにまとめる。 ・まとめたレポートから、他者にわかりやすく伝達するためのポスターをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で問いを見だし、課題を立てられたか。 ・膨大な資料の中から必要な情報を取捨選択し利活用できたか。 ・視覚的に効果的なレイアウトや配色を工夫したか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回プレゼンテーション(1学期に作成したポスターを用いて) <p>[第2回プレゼンテーションに向けて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から見聞きする芸術作品について問いを見だし、自分で課題を立て、インターネットを利用して情報を集める。 ・集めた情報を整理・分析してレポートにまとめる。 ・まとめたレポートから、他者にわかりやすく伝達するためのポスターをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回プレゼンテーション(2学期に作成したポスターを用いて) 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもってもらえるよう、プレゼンテーションを工夫できたか。 ・自分の発表や他者の発表を分析して、第2回のプレゼンテーションに向けて問いを立てられたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分で問いを見だし、課題を立てられたか。 ・膨大な資料の中から必要な情報を取捨選択し利活用できたか。 ・視覚的に効果的なレイアウトや配色を工夫したか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもってもらえるよう、プレゼンテーションを工夫できたか。 ・他者の発表を聞いて感じたことをワークシートにまとめられたか。

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVASⅢ	1	3年 総合探究コース	
教科書	なし	副教材	なし	

1. 学習の目標

- ・これまでに学んだ知識や技能、論理的思考力を利用して、自ら課題を発見し、解決する力を高める。
- ・自ら見出した課題に対し、情報を集め、整理・分析して、表現することができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席せず時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交流しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。また、1年次に学んだ数学ⅠAの内容を活用することがあるので、不安がある場合はしっかり復習しておく。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、文章によって評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
②思考力・判断力・表現力 知識技能を活用して課題解決のために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていけば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス説明(北稜探究の目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介 ・今後の進め方に関するアンケート 	
	2年次の探究の振り返り内容を文章に起こす。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の探究の内容を振り返る。 ・前年度の探究の内容を、志望理由書形式で文章にまとめていく。 ・まとめた文章を互いに交流し、フィードバックし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 ・グループ交流 表現
	志望理由書	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の内容で書いた文章を参考にしながら、各自の志望校、志望進路に応じて志望理由書を書いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 表現
2	面接	<ul style="list-style-type: none"> ・面接において聞かれやすい質問に対して、自分の答えを考え、より説得力を持たせた伝え方を考える。 ・互いに面接を行い、どのように伝えれば相手に伝わりやすいかを互いに学び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループ交流 表現
	小論文	<ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書を書く際の考え方、伝え方を活用して、小論文を書いてみる。 ・互いに書いた小論文を読み、添削してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 ・グループ交流 表現
	数学を用いて説得力のある論を展開する方法、数字でだまされないために気を付けるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> ・統計をはじめとした、数学や数字を用いて説得力のある論理展開する方法を学ぶ。 ・世の中の、数字を用いた情報を正しく理解するために必要なことを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 表現
3	数学思考問題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで培った思考力を用いて、数学に関わる問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義

令和7年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVASⅢ	1	3年総合探究コース	
教科書		副教材	知るぽると これであなともひとりだち	

1. 学習の目標

日常生活に関する様々なテーマを設定し、それについて自ら考え、表現する力を育成する。その中で自己のあり方・生き方について考える力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

自立してひとりで生活することを念頭に、生活に関する課題を様々な角度から考えてみてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	レポート等の内容
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	レポート等の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	意見発表 課題に取り組む態度

4. 担当者からのメッセージ

選択した動機は色々だと思いますが、とにかく生活に関する様々なことに興味・関心・疑問を持ってください。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動
1	1・自立してひとりで生活する	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票を読み取ることができる。 ・条件に合った適切な住居を選択することができる。 ・家計を試算することができる。 ・正社員とフリーターの違いを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出
2、3	2・テーマに沿って考える テーマに沿って作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って作業することができる。 ・テーマに沿って思考を深めることができる。 ・テーマに沿って意見を発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・意見発表 ・実習